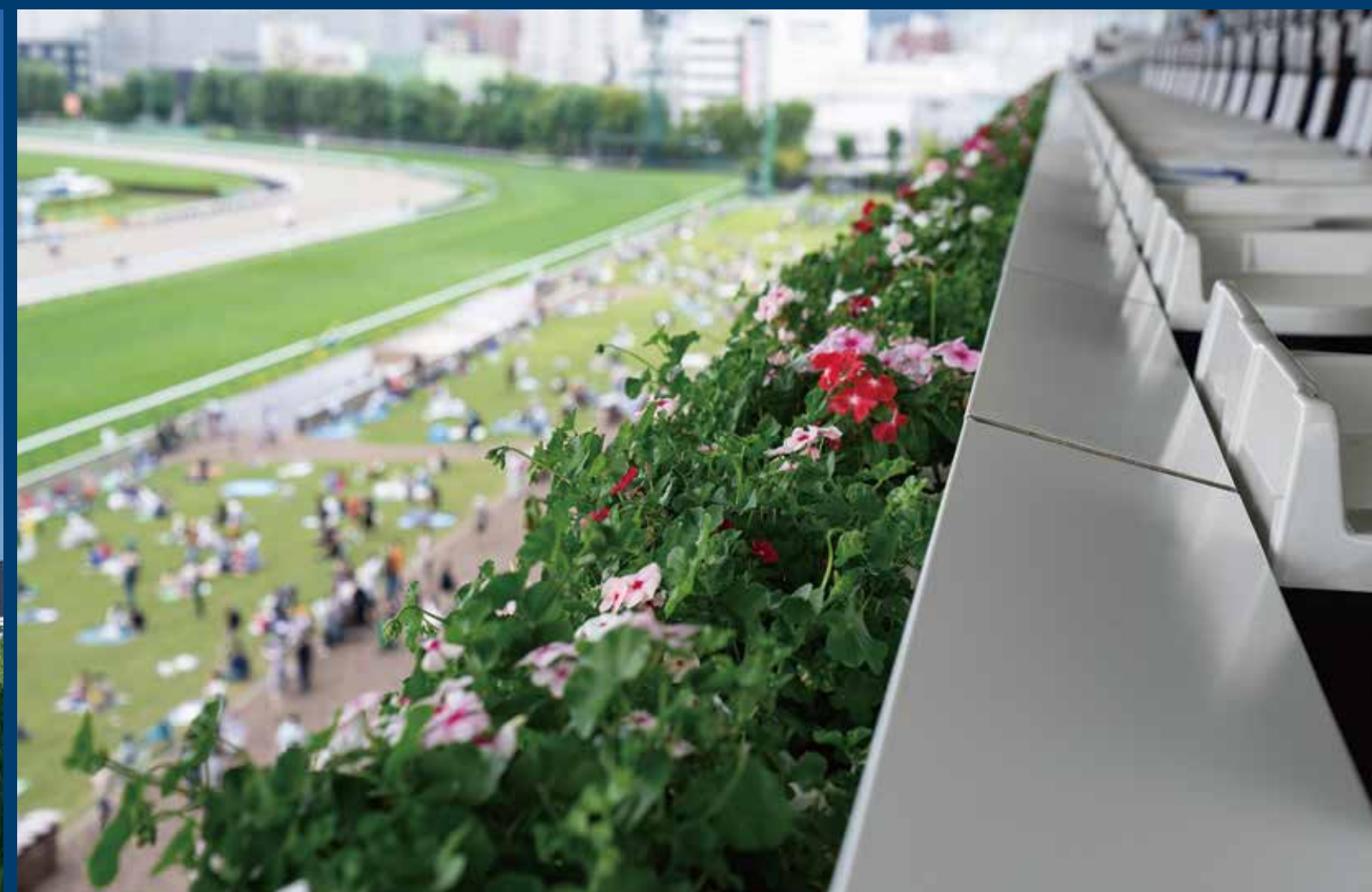


# 北の蹄跡

April 2023

一般社団法人 札幌馬主協会  
「北の蹄跡」(通巻第71号)

令和5年4月30日発行  
編集発行人 岡田牧雄  
一般社団法人 札幌馬主協会  
〒060-0016  
札幌市中央区北16条西16丁目1-1  
TEL 011(726)0461



- 2 札幌馬主協会会員所有馬の蹄跡  
委員会だより
- 4 馬場清め/馬頭観音祭/馬場施設/愛馬会ゴルフ
- 8 会員研修旅行「名古屋競馬観戦の旅」
- 12 会員懇親会開催「広瀬香美ディナーショー」
- 14 馬産地懇親会  
「JRAアドバイザー・元調教師 藤澤和雄氏を招いて」
- 16 お礼の手紙「社会福祉法人 浦河向陽会」
- 17 **特集①** 2022年札幌開催回顧
- 24 **コラム** 「ワールドウォッチング④8」  
合田直弘氏
- 26 **コラム** 「全日本的なダート競走の体系整備、そのリスク面は」  
須田鷹雄氏
- 28 **コラム** 「馬上の景色」 吉田直哉氏
- 30 **特集②** これからのダート競馬について考える
- 34 **会員エッセイ** 「叶えた夢。そして更なる夢の続きへ」  
スマイルファーム・中村広樹氏
- 36 **愛馬談話室** 「馬が、人生を豊かなものにした」  
浅沼廣幸氏
- 38 JRA後藤理事長、越智場長へ要望書提出
- 40 **特集③** 札幌記念GⅠ昇格への道
- 42 **特集④** ひだか・ホース・フレンズの取り組み
- 44 道営だより
- 46 会員異動・編集後記
- 47 牧場のひとコマ

2022年6月27日から12月31日の間にGⅠ(JpnⅠ)競走に勝利した札幌馬主協会会員所有馬をご紹介します。  
ここに改めて、関係者のみなさまに心よりお祝い申し上げます。



## ウシュバテソーロ

2022年12月29日(木)  
大井競馬場 第9競走  
「第68回東京大賞典」

- 馬主/了徳寺健二ホールディングス
- 生産牧場/千代田牧場(新ひだか町)
- 調教師/高木登(美浦)
- 騎手/横山和生

全国地方競馬場で行われるダートグレード競走において唯一のGⅠ競走「東京大賞典」はウシュバテソーロが優勝。重賞初勝利をGⅠ競走の大舞台で飾っています。

日本競走馬協会主催「セレクトセール」出身の同馬。初勝利は3歳4月の芝2400m戦で、その後は芝の中、長距離戦を選びながら素質に磨きをかけ、22年春にダート路線へと転じると、その素質を一気に開花させます。3勝クラス特別を楽勝し、リステッドレース含むオープン特別を2連勝。初の重賞挑戦の場を選んだこのレースで大輪の花を咲かせています。この馬もまた、レース後は招待を受ければという前提でドバイワールドC挑戦が打ち出されており、2023年は当協会会員所有馬が世界で活躍するシーンが期待できるかもしれません。

2017年3月4日生 牡 鹿毛

オルフェーヴル 栗毛 2008	ステイゴールド	サンデーサイレンス
	黒鹿毛 1994	ゴールデンサッシュ
	オリエンタルアート	メジロマックイーン
ミルフィアタッチ 鹿毛 2006	キングカメハメハ	Kingmambo
	鹿毛 2001	マンファス
	シジェームサン	Septieme Ciel
	黒鹿毛 1992	Samalex

# おめでとうございます Congratulations



## デルマソトガケ

2022年12月14日(水)  
川崎競馬場 第11競走  
「第73回全日本2歳優駿」

- 馬主/浅沼廣幸氏
- 生産牧場/社台ファーム(千歳市)
- 調教師/音無秀孝(栗東)
- 騎手/松若風馬

ダート競馬の2歳王者決定戦は「第73回全日本2歳優駿」。米国で行われるケンタッキーダービーの出走馬選定ポイントシリーズにもなっているこのレースを勝ったのはデルマソトガケでした。

レース前半は馬群の中で息を潜め、勝負処の3~4角から外を回って進出。最後の直線で力強く脚を伸ばして先頭ゴールインを果たしています。浅沼廣幸氏、そして今年から産駒を送り出している新種牡馬マインドユアビスケッツにとっては、初めてのGⅠ/JpnⅠ勝利となりました。レース後、管理する音無調教師からは海外挑戦プランも打ち出されました。仮にドバイ挑戦が実現すれば、ドバイゴールデンシャヒーン連覇の父マインドユアビスケッツにとっては、いわば産駒による「凱旋帰国」。楽しみが広がります。

2020年4月28日生 牡 栗毛

マインドユアビスケッツ 栗毛 2013	Posse	Silver Deputy
	鹿毛 2000	Raska
	Jazzmane	Tocchet
アムールポエジー 栗毛 2010	ネオユニヴァース	サンデーサイレンス
	鹿毛 2000	ポインテッドパス
	ハッピーリクエスト	トニービン
	栗毛 1997	エイプリルソネット



## ダンシングプリンス

2022年11月3日(祝)  
盛岡競馬場 第11競走  
「第22回JBCスプリント」

- 馬主/吉田千津氏
- 生産牧場/社台ファーム(千歳市)
- 調教師/宮田敬介(美浦)
- 騎手/三浦皇成

ダート競馬の祭典「JBCシリーズの快足ナンバーワン決定戦「スプリント」を制したのはダンシングプリンス号でした。

体質が弱くデビューが遅れ、初勝利は、JRAではもう3歳未勝利戦が終了した3歳11月の船橋競馬場でした。そこから一気に連勝街道を走り、5歳12月のカペラSで重賞初勝利。その後はサウジアラビア、ホッカイドウ競馬の門別競馬場と国内外の重賞競走3連覇。この日は圧倒的人気を背負いながらスタートで脚を滑らせてしまったクラスターCのリベンジ戦。好スタートからすんなりとハナを奪うと、そのままマイペースの逃げ切り勝ち。吉田千津氏にとってはイングリッシュダイアモンド(04年天皇賞・春)クイーンズリング(16年エリザベス女王杯)に続くGⅠ/JpnⅠ勝利となりました。

2016年5月17日生 牡 鹿毛

バドトロフ 鹿毛 2007	スウェプトオーヴァーボード	エンドスウィープ
	芦毛 1997	Sheer Ice
	グランパドドゥ	フジキセキ
リトルブレッシング 栗毛 2002	バブルガムフェロー	サンデーサイレンス
	鹿毛 1993	バブルカンパニー
	サワヤカプリンセス	ノーザンテースト
	栗毛 1986	スコッチプリンセス

## 良好な馬場コンディションを視察 馬場施設調査を実施

2022年の札幌開催を前にした7月15日、札幌競馬場で馬場施設調査を行いました。小林委員長ほか役員各位が出席し、同競馬場施設整備課から、芝コースについては、昨年の競馬開催終了後、傷んだコース内側を中心に約2700平方メートルの芝を張り替え、および向正面内側や4角外側など4300平方メートルの路盤更新などが行われたことなどの説明を受けました。



(渉外委員会)

## 馬場浄め式 馬頭観音祭 が執り行われる

3年ぶりとなる「当日現金発売入場券」の発売再開を前に、第1回札幌競馬の開幕を目前に控えた7月21日、札幌競馬場で愛馬たちの安全と、無事の開催を祈願する馬場浄め式（安全祈願祭）と、亡くなった馬たちに感謝し思いを馳せて冥福を祈る「馬頭観音祭」が執り行われ、当協会からは岡田会長が出席したほか、越智直弘場長、小島茂之調教師、横山和生騎手、橋本宏和厩務員ほか、JRAフアシリティーズ札幌事業所の白木所長、競馬セキユリティサービスの石川隊長らが出席されました。



安全祈願祭では三吉神社（札幌市中央区）の佐藤元昭祇宜の神事に則り、祝詞を奏上し、玉串を奉納。「人馬の安全と、開催の成功」を祈念いただきました。また、安全祈願祭終了後はパドック横の「馬頭観音」で真言宗豊山派成田山不動院の門屋憲明住職の仏事によって「馬頭観音供養祭」が執り行われました。門屋住職からは「コロナ禍



(協会運営委員会)

での開催も3回目となりますが、みなさまがご健勝で、競走馬も元気に走ることでできて1頭も亡くなることなく無事に開催できることをお祈り申し上げます」とお言葉をいただきました。

## 「引退競走馬に関する日本国内における取り組み」 「競走馬への禁止行為」及び「遺伝子改変馬」について

### JRA馬主研修会開催

中央競馬の取り組みなどについて学ぶ「馬主研修会」は7月15日、札幌競馬場4階の馬主エリアで行われました。今回のテーマは「引退競走馬に関する日本国内における取組」と「競走馬への禁止行為」及び「遺伝子改変馬」について。前者は日本中央競馬会の西

尾高弘参事が、後者については同馬事部の加藤智弘獣医課長に講師を務めていただきました。

西尾参事は「引退競走馬のセカンドキャリアに関する問題は、国内外で重要なテーマとなっており、理解を求めました。JRAでは、かねてより乗馬の普及を通



して引退競走馬のセカンドキャリアに関する支援を行っており、2017年（平成29年）12月には『引退競走馬に関する検討委員会』を設置。18年の事業計画から『引退競走馬のセカンドキャリアの促進支援』が織り込まれ、多様な活用を促進を図っていることなどを説明いただきました。また、「この問題は競馬サークル全体として取り組む問題だが、JRAとしてもしっかりとやっていくので馬主のみならずにもご理解いただき、安心してオーナーあるいは生産者として競馬を支えていただきたい」と結びました。

また、安全祈願祭終了後はパドック横の「馬頭観音」で真言宗豊山派成田山不動院の門屋憲明住職の仏事によって「馬頭観音供養祭」が執り行われました。門屋住職からは「コロナ禍での開催も3回目となりますが、みなさまがご健勝で、競走馬も元気に走ることでできて1頭も亡くなることなく無事に開催できることをお祈り申し上げます」とお言葉をいただきました。

## 44人が自慢の腕競う 愛馬会ゴルフ 長澤稔会員が優勝

3年ぶりの開催となりました。大会になることを期待したい。ゴルフコンペ「愛馬会」は8月1日、千歳市のザ・ノースカントリーゴルフクラブで会員及びその家族らを含む44人の方々に参加いただき、ダブルペリア方式（ハンデイクヤップ打ち切りなし）にて開催いたしました。

当日は雨。しかも午後からは激しい豪雨に襲われるなど、これまで経験したことがないようなコンディションにスコアを崩す方が多い中、優勝は長澤稔さん。ベストグロス賞にはアウト38、イン39でまとめた下屋敷千尋さんが輝きました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため表彰式などは行いませんでしたが、ご参加いただきましたみなさまに心より感謝申し上げます。

来年こそ、気兼ねなく楽しめ



（事業サービス委員会）

## （一社）全日本学生馬術連盟に支援

### 令和4年度札幌馬主協会社会貢献事業

札幌馬主協会の社会貢献事業として、令和4年度は9月9日から11日にかけて苫小牧市のノーザンホースパークで行われた第94回全日本学生馬術選手権大会及び第58回全日本学生馬術女子選手権大会に対して助成を行いました。この大会は、学生馬術の振興と馬術界の中枢たる学生馬術の堅実な発展を図ることを目的して開催されるもの。北海道地区からは帯広畜産大



選手権2連覇の楠木選手



女子選手権で2連覇を果たした越後選手

学、北海道大学、酪農学園大学の3校からあわせて9人（選手権4人、女子選手権5人）が出場を果たし、その他全国5地区で行われた予選会を勝ち抜いた計57人の選手とともに日頃の練習の成果を競いました。

（社会貢献委員会）

## 公益財団法人中央競馬馬主社会福祉財団 令和4年度施設整備等助成金 17の法人・施設に助成金贈呈

公益財団法人中央競馬馬主社会福祉財団（畑山光伸理事長）による令和4年度の施設整備等助成金の交付先が9月26日、同福祉財団によって決定しました。

これは、中央競馬の馬主協会に所属する馬主が、中央競馬のレースにおいて獲得した賞金の一部を拠出し、これらを原資とする社会貢献事業です。助成の対象となる団体は①社会福祉法人、②社会福祉事業を行っている公益財団法人、公益社団法人等、③所在地の社会福祉協議会の推薦を受けた社会福祉事業を行っている特定非営利活動（NPO）法人で、助成の対象となるのは備品等の購入、施設の設置、増改築及び各種修繕工事等に限り、昭44年（1969年）の財団設立以来、約50年間の歴史の中で1200億円あまりの助成をおこなってきています。

6月16日の締め切りまでに札幌馬主協会に寄せられた申込件数は36件。これら

について、北海道共同募金会の審査会を経て、7月29日に行われた第1回推薦委員会において、利用者の生命や健康に直結するような緊急性の高い案件、利用者の方々の社会自立や社会参加に効果がある案件を最優先とするほか、職員の業務省力化を図ることによって、間接的に利用者の処遇改善となるものを優先いたしました。またJPLACEを含む中央競馬関連施設所在地にも配慮したうえで、初めて申請された法人を優先いたしました。また、本年も要綱にある総事業費の75%以内は順守し、より喜ばれる効果的な配分を行うことに留意し、推薦ラック上位の法人17件に対し、総事業費のほぼ65%の助成金を配分することができました。

なお、目録贈呈式は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から本年も中止させていただきました。

（社会貢献委員会）

（公財）中央競馬馬主社会福祉財団 令和4事業年度 施設整備等助成金交付先一覧

番号	法人名	法人所在地	施設名	施設の種類	要望物件
1	(福) サロマ福祉会	常呂郡佐呂間町	特定施設入居者生活介護 サンガーデンさろま	施設入所支援、生活介護	福祉車両
2	(福) わらしべ会	札幌市東区	障がい者支援施設 浦河わらしべ園	施設入所支援、生活介護	受電設備更新工事
3	(福) 浦河向陽会	浦河郡浦河町	障がい者支援施設 浦河向陽園	生活介護、就労移行支援、就労継続支援B型	暖房ボイラー
4	(福) 柏の里めむろ	河西郡芽室町	多機能型事業所 オークル	生活介護、就労移行支援、就労継続支援B型	ドックコンディショナー
5	(NPO) みなみなプレイス	川上郡標茶町	(NPO) みなみなプレイス	放課後等デイ、日中一時支援、就労継続支援B型	除雪機・草刈機
6	(NPO) Forest	札幌市中央区	就労継続支援A型事業所 branch for pro	就労継続支援A型	休憩室改修工事及びPC環境の整備
7	(NPO) 自立支援センター歩歩路	札幌市東区	重度心身障害者共同住宅 さっちゃん	居宅・重訪・行動支援、同行支援、移動支援	リフト付シャワーチェア
8	(福) ともに福祉会	札幌市西区	就労移行支援事業・就労継続支援B型事業 ともに	就労移行支援、就労継続支援B型	送迎車両
9	(福) 沢仁会	札幌市中央区	通所介護 あおばデイサービスセンター	通所介護	電気設備更新工事
10	(公財) 北海道盲導犬協会	札幌市南区	盲導犬訓練施設・公益財団法人 北海道盲導犬協会	盲導犬訓練、共同訓練、生活訓練	在宅訓練、訪問車両
11	(福) 札幌肢体不自由福祉会	札幌市中央区	生活介護事業所 O・むすび	生活介護	福祉車両
12	(福) 清田福祉会	札幌市清田区	清田保育園	保育園	冷凍冷蔵庫、食器消毒保管庫
13	(NPO) ワーカーズ・ぼっけ	札幌市清田区	地域密着型通所介護事業所 デイサービスいきいき広場	通所介護、訪問介護、居宅介護	送迎車両
14	(NPO) ほっとスペースこすもす	旭川市	就労継続支援B型ピア・こすもす	生活介護、就労継続支援B型	送迎車両
15	(福) しべつ福祉会	士別市	就労継続支援B型ワークセンターさずな食事処「結」	生活介護、就労継続支援B型	うどん製麺機
16	(福) 千歳いずみ学園	千歳市	児童発達支援・放課後等デイサービス ばすてる	児童発達支援・放課後等デイサービス	送迎車両
17	(福) 扶躬会	釧路市	特別養護老人ホーム 鶴の園	特養老	特殊介護浴槽シャワーベッド



## 会員研修旅行

# 名古屋競馬観戦の旅



令和4年度の会員研修旅行は11月22日から25日、この春から弥富市へ移転し、そしてワールドオールスタージョッキーズに参加いただいた岡部誠騎手が在籍している「名古屋競馬観戦の旅」。会員と、その家族など79人にご参加いただきました。

今回は、新型コロナウイルス対策としてバス4台に分乗。そして、3泊4日の全行程をオフショナルツアーとして実施しました。全24パターン用意された行程の中からどのコースを選ぶのかは、参加される方々ご自身でした。



午前9時30分、新千歳空港に集合した一行は、日本航空機で一路中部国際空港へ、そこからバスで往年の名車トヨタ2000GTなどが展示されているトヨタ博物館を経て、研修旅行の目的地名古屋競馬場へと向かいます。この日は17時30分発走の第7競走に「札幌馬主協会来場記念」競走が行われ、優勝馬の関係者に記念品などが手渡されました。

名古屋から京都に移動した2日目はユネスコの世界遺産にも登録されている「金閣寺（鹿苑寺）観光」をメインとするコースと「渡月橋」などが楽しめる「嵐山散策コース」そして、栗東トレーニングセンターと伝統芸能のお座敷遊びが体験できる「お茶屋花傳」の3コース。栗東トレーニングセンターでは中竹調教師にご案内いただきました。この場を借りて、改めて感謝いたします。



# 研修旅行 スケジュール

11/22	新千歳空港 10:35	中部国際空港 12:25	トヨタ博物館	名古屋競馬場	あつた蓬萊軒 ホテルでの夕食	名古屋マリオット アソシアホテル (泊)
11/23	京都Ⅰ 京都Ⅱ 京都Ⅲ	名古屋	トロッコ亀岡駅 亀岡(川下り)	トロッコ嵐山駅 嵐山	金閣寺 嵐山散策 京都お茶屋【花傳】	有馬 (泊)
11/24	大塚国際 美術館コース うずしお コース	有馬	(明石海峡大橋) 六甲山展望台	岡波十郎兵衛屋敷 人形浄瑠璃鑑賞 神戸酒心館 (見学)	鷹島グランプリオリオ (昼食) ホテル北野スラザ 六甲荘 (昼食)	鳴門公園 (泊)
11/25	大塚国際 美術館コース うずしお コース	鳴門公園	大塚国際 美術館	うずしお 観潮船	淡路島海上ホテル (昼食)	伊丹空港 15:55
						新千歳空港 17:40

3日目は海を渡って  
国の重要無形文化財  
「阿波人形浄瑠璃」を  
楽しむ「阿波十郎兵  
衛屋敷」から四国八十  
八箇所霊場のひとつで  
もある薬王寺を回る  
コースと、神戸で「神  
戸酒心館」見学と、水  
族館とデジタルアート  
などを融合する世界観  
を表現した劇場型アク  
アリスム「アトア」  
コース。

どのコースを選んで  
も、宿泊は同じ旅館、  
ホテルに戻ってきます  
ので夕食時の会話も弾  
みます。最終日は西洋  
名画約1000点を陶  
板で原寸大で再現して  
いる「大塚国際美術  
館」。全長4キロにも及  
ぶ鑑賞ルートをフルに  
楽しんでいただくコー  
スと、美術館鑑賞前に  
世界最大級のうずしお  
を体験いただける観潮  
船に乗っていただく  
コースに分かれ、最後  
は淡路島海上ホテルで  
ふぐ料理を堪能したあ  
と、伊丹空港から帰路  
に着きました。ご参加  
いただいたみなさま、  
本当にお疲れさまでし  
た！

# 会員懇親会を開催 ～広瀬香美さんディナーショー～



ただければと思います」とあ  
いさつ。  
続いて、岡田会長からは  
「6月にダート三冠競走の創  
設が発表され、北海道市場は  
かつてない活況を呈しまし  
た。改めて競馬番組がサーク  
ル全体に大きな波及効果をも  
たらすことを再認識した次第  
です。夏競馬をどう盛り上げ  
ていくかは、今後の大きなテ  
ーマのひとつ。気候的にも環  
境的にも高い評価を受けてい  
る国際観光都市である札幌で  
国際招待競走を行い、今まで  
以上に夏競馬を盛り上げてほ  
しい」とさらなる発展が呼び  
かけられ、後藤理事長からは  
「コロナはまだまだ沈静化す  
る気配はみえませんが、多く  
の方々の理解とご協力を得ら  
れながら、毎週の競馬を休む  
ことなく続けてくれたことに  
感謝したい。いただいたご助  
言に関しては取り入れるとこ  
ろは取り入れ、そしてこれか  
ら油断することなく競馬の  
開催を続けていくことを第一  
に考えながら取り組んでいき  
たい」と言葉をいただきました

藤原副会長による乾杯で懇  
親会はスタート。行動の自粛  
が長く続いていたために、久  
しぶりに顔を合わせる方々も  
いらしたようで話は尽きない  
ようでしたが、歌手の広瀬香  
美さんによるディナーショー  
が行われたほか、ワールドオ  
ールスタージョッキーズで激  
闘を繰り広げたWAS選抜  
(外国騎手・地方競馬代表騎  
手チーム)の方々も姿を見  
せ、会場内は華やかな雰囲気  
に包まれました。  
約3時間にわたる懇親会。  
最後は宮永副会長の「JRA  
の方々、調教師の方々、そし  
てワールドオールスタージョ  
ッキーズに参加いただきました  
たジョッキーズの方々はじめ、  
たくさんの方々にご参加いた  
だきましたこと、感謝申し上げ  
ます。これからも会員のみな  
さまに喜んでいただけるよ  
うな行事を企画していきます  
ので、どうぞよろしくお願  
いいたします」という言葉で締  
めくくられました。

8月28日、市内ホテルにお  
いて日本中央競馬会の後藤正  
幸理事長などを招いて開催期  
間中としては2019年以  
来、3年ぶりに「会員懇親  
会」を開催しました。新型コ  
ロナウイルス感染症の対策と  
して会場内に空間除菌装置10  
台、そしてロビーにも2台を  
設置したほか、飲食時以外で  
のマスク着用、そして手指等  
のアルコール消毒などご参加  
いただいた177人の皆様には  
大変ご不便をおかけしまし  
たが、快くご協力いただきま  
したこと改めて感謝申し上げ  
ます。  
秋谷事業サービス委員長は  
「ここ3年間、来賓を招いて  
の会員懇親会はすべて中止せ  
ざるを得ない状況でしたが、  
こうして皆様にお集まりいた  
だけるようになったことはう  
れしい限り。感染症対策には  
万全を期しておりますので、  
今日だけはコロナのことや日  
頃の喧騒を忘れ、楽しんでい

# 馬産地懇談会

（JRAアドバイザー、元調教師）

藤沢和雄氏を招いて



藤沢和雄元調教師  
プロフィール

1951年（昭和26年）9月22日生  
北海道出身

JRAで9113戦1570勝

（歴代2位）

重賞勝利数126勝（歴代2位）

GⅠ勝利数34勝（歴代1位）

地方競馬29戦5勝

海外21戦3勝（うちGⅠ1勝）

みなさま、こんばんは。本日はお声がけいただき、ありがとうございます。

私は、馬という動物と実際に会話をすることが出来ないもので、本当のことを言えば、調教師を引退した今も、未だに馬が何を考えているのか、よく分からないのですが、私が経験してきたこと、思うことが、会員の皆様が厩舎を選ぶときの参考になればと、今日はお引き受けしました。

まず、馬は何のために、そして誰のために走っていると思いますかという質問をいただきました。馬という動物は、強くなろうとか、相手に負けて悔しいなんて全然思っていないと思いますので、馬を元気よく一生懸命走るように仕向けるというのはとても難しいことだと思っています。そこで、私は、馬の本能のようなものを利用しました。1頭では運動を

したがらない馬でも何頭かと一緒であれば動いてくれる。今はもう主流になった集団調教というものです。それでも、馬は、何歳になっても調教場へ行くときは遅いし、帰りは早いです。学校へ行く人間の子供のようなものです。そのため、調教場からの帰り道は、長い距離を歩かせるために遠回りさせていました。これは、結構な運動量になっていたと思います。

それから、馬のトレーニングに関して言えば、所謂「すり込み」というものも大切だと考えています。私は、馬という動物にはスピードの感覚がないと思っただけで、やってきました。最初は1ハロン15秒程度のキャンターで、前を行く馬を追い越す練習をする。先頭の馬は抑えているから、簡単に追い越せる。次は、ハロン13秒で追い越す練習をします。その代わり先頭の馬は加減してやらなければいけな

いただきます。私がトレセンに入った頃は、調教はほとんど厩舎でやらせてもらっていました。今は牧場の施設も随分立派になりましたし、トレーニングセルも盛んになって、デビューが随分早くになりました。本音を言えば自分のところでは、イチから調教したいのですけれども、厩舎の馬房数の2倍、3倍の馬が登録できるようにになって、トレセンに来てから1日でも早く競馬を使うために、初期馴致なんかは厩舎でなくて牧場のほうでやってもらうようになりました。これからもうそういうことになると思うのですけれども、育成牧場は育成牧場で馬の頭数も多いです。ですから人手を確保することが大変だと思えます。馴致の段階では事故もあるし、馬が嫌がることもあるでしょうけれども、なるべく子供のうちに、体力のないうちに、人間が勝てるうちに曳く、触れるという機会を多くしてもらいたいのです。大事なことは、やはり毎日こつこつ乗ることだと思います。ほかの仕事もあるのです。全部の馬を毎日調教するというのは大変だと思えます。毎日乗ることが大事だと思います。

と、言うのも最近では背中が慣れていない馬が多いと思うことがあります。乗っ

たらどんどん進んでいくのだけれども、装鞍慣れしていない馬が多い。私のところの馬も、繁殖に戻る馬以外は、競馬を使つたあとに放牧に出す馬でも引き運動のときは必ず腹帯をつけて慣らすようにしています。今はウォーキングマシンが出来て使う人も多いですが、そういう場合でも裸馬ではなくて腹帯をつけています。少しでも背中を慣らしておいたほうが、事故も少ないし、いい馬ができると思います。

それでレースへ向けてということですが、私は若い調教師によく言う例え話にガゼルとチーターの話があります。ガゼルはチーターに追いかけるからといって毎日練習をするわけでもないし、チーターもガゼルを捕まえようと思っただけで、ガゼルの練習なんてしていない。それでも捕まえられるときもあれば逃げられるときもある。馬も同じで普通に走れるような状態にしておけば、結果はそんなに変わらないと思います。馬を必要以上に追い込む必要もないし、一生懸命やらなくても大丈夫だと。私もいまだにそう思っています。

今はトレセンの厩舎でも、牧場も人が足りないという話を多く聞きます。若い

い。どんどん行ってしまうようでは練習にならないからです。そういうふうに行つて、追い越す練習をすり込ませると、遅い時計でできることが、速い時計でもできるようになる。最初から、速い時計でやってしまうと馬は壊れてしまいます。遅い時計で2回か3回追い越す練習をしたほうが、目いっぱい追いついて追い越すよりも、ずっと馬にも良いし、強い馬ができると思います。行きたがる馬が後ろにいるときは、抑えるのが大変なのですが、ちよつとスピードを出してやると割と楽に抑えられる。そのうち遅いキャンターでも、後ろに行つたときは抑えられるようになるので、こういった事もメンタルトレーニングとしてすごく大事なことだと思います。

また、育成牧場に求める調教とレースに向けての調教の違いという質問も良くあります。これを解決するのは簡単なことではないと思えますが、1つ言えるのは若い人は、やはり若い人がいるところで仕事をしたい。私もそうでした。同じ年齢の人たちがいるところは楽しいし、そういうところへ就職したいという気持ちになる。それと、自分たちはこうだったから、というのは若い人たちに自分がやってきたことや、価値観を押し付けられない方がよいと思えます。その辺は気をつけたほうがいいかなと思います。

最後になりますが、私にとつて馬とは、というご質問をいただきました。私は、馬というのは必ず恩返しをしてくれる動物だと思っています。例えば、GⅠレベルにないと思つたら、大事にして早く牧場へ帰すと、良い子供を産んでくれるよということをよく言っています。みなさんもぜひ、馬は恩返しをしてくれる動物だと思つて向き合ってください。今日はどうもありがとうございました。

（編集部注\*この講演は質疑応答形式で進行いたしました。講演要旨をまとめさせていただきます）



# 特集1 2022年 札幌開催 回顧



JRA札幌競馬場に賑わいが戻ってきました。新型コロナウイルス感染症対策として2020年は完全無観客、2021年は入場人数を1日1400人弱に制限しての開催を余儀なくされましたが、22年は札幌記念当日を除き、開催当日の「現金発売入場券」を再開。感染症対策として入場時に「情報記入券」に必要事項をご記入いただくなど、まだ完全開放とはなりませんでしたが、競馬を愛するたくさんの方々の方々、ご家族連れの方など14日間トータルで14万7708人の方々とともに7月23日から9月4日まで2開催14日間の競馬開催を楽しむことができました。

また3年ぶりに馬主エリアのピュッフェも再開。多くの方々にご利用いただきましたほか、ターフでは国際色豊かなワールドオールスタージョッキーズが行われるなど、限りなくかつての開催に近づき、馬主協会による競馬場を彩る花装飾もどこか喜んでいるようにも見えました。



## 助成に感謝をこめて

社会福祉法人 浦河向陽会  
理事長 三好吉男

このたび公益財団法人中央競馬馬主社会福祉財団・一般社団法人札幌馬主協会様から令和4年度施設整備助成金の交付決定をして頂きました。利用者の方やご家族の皆さん、役職員ともども深く感謝しております。

今回助成していただいた内容は「障がい者支援施設 浦河向陽園」の暖房ボイラーの更新です。当施設でこれまで使用していた暖房ボイラーは平成6年に更新しました。その後、随時修理を行い、30年近く使用してきましたが、老朽化により修理も難しい状況となっております。

今回暖房ボイラーを更新させて頂くことで、利用者の方に安定して温かい環境を提供させて頂くことができます。浦河向陽園一同とてもありがたく感じているところでございます。

施設が所在する浦河町は、えりも岬の西側50kmの距離に位置し、夏は涼しく、冬は温暖な気候で住みやすい町であります。競走馬の生産が盛んで、のどかな風景の中、サラブレッドが元気に走り回っています。また、豊かな太平洋で採れる海洋資源も豊富で、昆布を浜に干している風景は夏の風物詩となっております。

障がいを持つ方の家族からの要望に応えるべく、当施設は昭和56年に開設されました。開設後40年以上経過し、地域の社会福祉事業の一端を担っております。

開設後は公益財団法人中央競馬馬主社会福祉財団・一般社団法人札幌馬主協会様を始めとする各団体の皆さんから多大な助成を頂きながら、障がいを持つ方が毎日の生活や様々な仕事、活動の取り組みの中から、喜びや充実感を感じられるよう、必要な建物や設備の整備、新たな事業展開を進めてまいりました。

現在当法人においては、「障がい者支援施設 浦河向陽園」「就労支援事業所 青空」「グループホーム えふえ荘」「障がい者相談支援事業所 ういず」の4事業所を運営し、障がいを持つ方やそのご家族、地域の皆さんのご要望に応えられるよう努めております。

これからも心身に障がいを持つ方の気持ちに寄り添い、各々の個性や特性を活かしながら明るくのびのびとおおらかに生きる喜びを充分体得できるようサポートして参りたいと考えております。

この度は限られた財源の中で当法人に過分なご助成を頂きましたこと、改めて感謝申し上げます。この度ご助成頂いた暖房ボイラーはこれからも大切に末永く利用させて頂きたいと思っております。本当にありがとうございました。





## 1224億円超を記録 —昨年比104・3%

21年は、東京オリンピック開催の一部競技が札幌で行われる関係で第1回札幌開催が函館開催と入れ替わる形での開催でした。そのため、昨年と単純な比較はできませんが14日間トータル売り上げは1224億7059万200円。同じ開催日割りで行われた一昨年比では104・3%と大きく数字を伸ばすことができました。

とくに国内外のGI優勝経験馬5頭が顔を揃え、連覇を狙うソダシと函館記念を勝ってサマ12000シリーズを狙うハヤヤッコの白毛馬対決に沸いた札幌記念は売上レコードを記録した昨年を20億円以上上回る97億5881万3300円（前年比126・4%）となり、記憶にも記録にも残る1戦となっています。

開催を終えて越智直弘場長は「新型コロナウイルスについて

まだまだ予断を許さない状況の中での開催となりましたが、白毛馬対決に沸いた札幌記念、そして3年ぶりのワールドオールスタージョッキーズなどファンに面白い競馬を提供しながら無事に開催を終えることができました。事に胸をなでおろしています。また馬場コンディションに関しても良好だったという報告を受けており、馬主の方々にもご満足いただけたのではないかと思います。開催にご協力いただきましたこと、改めて感謝申し上げます。

## 14日間で38勝を記録

22年もまた、当協会会員の所有馬たちは2開催14日間すべてで勝利を記録することができました。ここに改めてお祝いを申し上げます。

特に、開幕を待ちわびていたかのように開幕週は2日間で68頭が出走し8勝を記録したほか2着10頭、3着5頭。3頭に1頭が3着以内という好成績を収めています。

その先陣を切ったのは社台レースホース所有のインペリアルライン号。ちょうど1年前の第1回函館競馬でデビューした馬ですが、その間9戦して5度も掲示板を確保しながらもなかなか先頭でゴールを果たすことができませんでした。この日はポツンと離れた最後方追走から、大外を回りながら力強い伸びを見せて前を行く馬を捕らえて嬉しい初勝利を記録することができました。無事名馬。ますますの活躍を期待したいと思えます。

そして、この日は夢広がるメイクデビュー、そして特別戦も当協会会員所有馬が制しています。

第5競走に組まれたダート1700mのメイクデビュー札幌に勝ったのは、社台レースホー

ス所有で新種牡馬マインドユアビスケッツ産駒のミラーオブマインド号でした。やや促されながらスタンド前を好位で通過。4角手前では砂を被るような位置にありましたがひるむことなく前を追い、最後の直線では1頭だけポテンシャルの違いを見せつけるかのような伸びを見せました。手綱を取った横山和生騎手も「初戦らしからぬ内容で勝つことができました。次も楽しみです」と夢を広げる1勝になりました。

また、この日の第9競走「利尻特別」では、永見貴昭氏所有のアケルナルスター号が堂々1番人気に応えて優勝。2歳時にはホープフルSに、3歳春には共同通信杯から弥生賞へと挑んだ馬の底力を見せつけるかのような1戦となりました。

これらを含めてメイクデビューは3勝。そして2つのオープン特別含み特別戦は9勝。合計38勝は昨年の34勝を大きく上回る数字となりました。関係者の皆様、改めてお祝い申し上げます。



## 夢広がる2歳戦10勝 オープン競走も2勝

先に紹介しましたメイクデビユー13勝含め、会員所有の2歳馬は10頭。この中にはクローバー賞、すずらん賞と2つのオープン特別競走も含まれています。桑田牧場所有ジョリダム号は道営ホッカイドウ競馬からの挑戦でしたが、初めて経験する芝コースにも臆することなく父

カレンブラックヒル譲りのスピードでハナを切り、終始厳しいマークにあうような状況の中でも4コーナーを回って後続を振り切りました。430キ台という小柄な牝馬ではありますが、JRA所属馬を相手に堂々と受けて立つような頼もしい内容でした。

また開催の最後を飾る「すずらん賞」も、同じくホッカイドウ競馬所属でビッグレッドファーム所有のコスモイグローク号

が道中後方待機策から最後の直線で大外から力強い伸びを見せて、こちらは差し切り勝ち。図らずも当協会会員の所有馬によって、ホッカイドウ競馬のレベルの高さを証明する結果となっています。

## ワールドオールスター開催 総合優勝は武豊騎手

3年ぶりに開催されたワールドオールスタージョッキーズは、合計71点を獲得した武豊騎手が、同シリーズが札幌競馬場で行われるようになった2015年から数えて6度目の挑戦（2020、21年は休止）で初優勝、1987年にスタートした同シリーズの前身ともいえる「きわーろどスーパージョッキーズ」シリーズ時代も含めれば2度目の優勝を飾りました。とはいっても、同シリーズにおける武豊騎手の強さは特筆もので2

015、16、18年は2位。過去6回の開催で23回騎乗（1度は競走除外）して2勝ながらも2着10回3着2回。5割を超える連対率、6割を超える複勝率を誇っています。

2位は59点の川田将雅騎手、

は、札幌競馬場の名物となっていて、札幌競馬場の名物となっていて、JRAのジョッキーズも出場を目指して毎年やっていますので、来以降もここで熱いレースを繰り広げられるように頑張っていきたいと思っています」とコメントしてくれています。

## 開催リーディングは 横山武史騎手

3位は58点の松山弘平騎手。また、チーム対抗戦ではJRA選抜が284点を獲得し、6回連続で優勝となっています。武騎手はJRA広報を通して「すごく嬉しいです。今年も出場することができて、無事に開催もされて、外国から来たジョッキーは難しい状況だったと思います

開催リーディングの騎手部門は22勝をあげた横山武史騎手が2年連続2度目の受賞。調教師部門は6勝の須貝尚介調教師が2年ぶり2度目の首位に輝いています。

が日本に来てくれてありがたいなと思いますし、みんなと乗れることは張り合いがあります。ごく充実した2日間でした。良い馬に乗せてもらえましたし、馬とスタッフのおかげです。このシリーズは2位ばかりだったのだ、優勝は本当に久しぶりだなと思えました。このシリーズ

ほか、開催リーディングサイアーは、産駒が1億7948万5000円を稼いだデイリープリンパクトがドウラメンテをわずかに抑えて首位に。リーディングブリーダーは29勝のノーザンファームが2位以下にダブルスコアの差をつけています。

## リーディングジョッキー (勝利回数順)

順位	騎手名	騎乗回数	1着	2着	3着	取得賞金(円)
1	横山武史	100	22	11	13	299,560,000
2	丹内祐次	142	16	17	17	282,140,000
3	武豊	81	14	14	6	240,350,000
4	横山和生	97	13	16	11	203,480,000
5	鮫島克駿	96	9	9	12	170,430,000
6	角田大和	98	9	6	7	100,910,000
7	吉田隼人	102	8	10	9	163,550,000
8	池添謙一	55	7	5	6	134,840,000
9	斎藤新	83	7	4	8	131,160,000
10	藤岡佑介	56	6	9	8	166,560,000

## リーディングトレーナー (勝利回数順)

順位	調教師名	出走回数	1着	2着	3着	取得賞金(円)
1	須貝尚介(栗東)	32	6	4	1	91,820,000
2	斎藤誠(美浦)	19	4	3	2	86,670,000
3	矢作芳人(栗東)	44	4	2	5	81,410,000
4	鹿戸雄一(美浦)	14	4	1	0	39,000,000
5	国枝栄(美浦)	24	4	0	2	75,300,000
6	高橋亮(栗東)	15	3	2	3	37,600,000
7	和田勇介(美浦)	16	3	2	2	39,000,000
8	南井克巳(栗東)	22	3	2	2	71,040,000
9	梅田智之(栗東)	16	3	2	2	47,780,000
10	武幸四郎(栗東)	17	3	2	1	30,000,000

## 2022年札幌開催成績表

開催	日	売上(円)	前年比	入場者
第1回札幌競馬	1日目	5,350,704,700	61.1%	7,153
	2日目	6,142,360,500	64.8%	10,840
	3日目	8,497,907,000	102.5%	8,717
	4日目	12,996,200,100	93.0%	11,674
	5日目	8,285,248,900	98.5%	7,826
	6日目	13,074,683,400	103.9%	9,675
小計		54,347,104,600	88.4%	55,885
第2回札幌競馬	1日目	6,261,774,800	103.5%	8,387
	2日目	6,348,393,400	96.7%	9,399
	3日目	5,789,860,800	104.7%	7,581
	4日目	16,825,266,200	119.7%	15,606
	5日目	6,263,484,600	112.4%	8,972
	6日目	12,320,184,000	113.7%	13,009
	7日目	7,850,619,000	116.7%	13,340
	8日目	6,463,902,800	109.3%	15,529
小計		68,123,485,600	111.2%	91,823
開催合計		122,470,590,200	94.5%	147,708

第1回札幌競馬の前年比は昨年の第1回函館競馬7~12日目との比較

## 2022年

## 札幌開催ランキング

### リーディングオーナー (取得賞金順=付加賞金除く)

順位	オーナー名	出走回数	1着	2着	3着	取得賞金(円)
1	シルクレーシング	41	4	1	7	96,500,000
2	サラブレッドクラフィア	47	5	7	2	86,630,000
3	社台レースホース	60	7	4	4	80,120,000
4	ノルマンディーTC	42	5	2	4	77,120,000
5	G1レーシング	35	5	6	1	75,020,000
6	前原敏行	1	1	0	0	70,000,000
7	サンデーレーシング	24	4	3	4	68,410,000
8	ビッグレッドファーム	37	4	1	7	62,220,000
9	キャロットファーム	38	4	5	3	58,560,000
10	ウイン	20	2	2	2	58,480,000

付加賞金

### リーディングサイアー (取得賞金順=付加賞金含む)

順位	父馬名	出走回数	1着	2着	3着	取得賞金(円)
1	ディーピンパクト	76	7	7	4	179,485,000
2	ドウラメンテ	71	13	2	6	171,380,000
3	ロードカナロア	37	6	11	8	155,584,000
4	モーリス	76	7	3	6	153,521,000
5	キズナ	61	9	0	5	106,313,000
6	オルフェーヴル	42	4	6	3	95,226,000
7	シニスターミニスター	74	7	3	1	81,534,000
8	ハーツクライ	12	3	3	5	79,306,000
9	キングカメハメハ	35	3	6	3	76,157,000
10	ルーラーシップ	37	6	4	2	72,766,000

### リーディングブリーダー (取得賞金順=付加賞金除く)

順位	牧場名	出走回数	1着	2着	3着	取得賞金(円)
1	ノーザンファーム	280	29	30	29	555,930,000
2	社台ファーム	189	9	17	18	210,660,000
3	クラウン日高牧場	5	4	0	0	110,900,000
4	下河辺牧場	33	3	3	3	88,460,000
5	岡田スタッド	69	2	3	8	88,150,000
6	三嶋牧場	47	3	6	6	74,270,000
7	ビッグレッドファーム	45	4	4	5	66,950,000
8	追分ファーム	35	6	4	2	66,020,000
9	社台Cop.白老ファーム	50	3	4	3	58,080,000
10	村田牧場	4	2	0	0	57,600,000

## 開催中の出来事

### ○丸山騎手が落馬負傷

7月23日、第1回札幌競馬初日の第12競走でサイモンポーリア号(牝4歳、美浦・根本康広厩舎)がスタート直後に躓き、騎乗していた丸山元気騎手(31歳、美浦・根本康広厩舎)が落馬した。左頬部打撲、右腋窩打撲に伴う皮下出血と痛みと診断され、翌24日に札幌競馬で予定していた8鞍すべてが騎手変更となった。

### ○吉田隼人がJRA通算1100勝

7月24日、第1回札幌競馬2日目の第5競走でドゥアイズ号(牝2歳、栗東・庄野靖志厩舎)が1着となり、騎乗していた吉田隼人騎手(38歳、美浦・フリー)のJRA通算勝利数が1100勝となった。重賞勝利は2015年有馬記念(ゴールドアクター)、21年桜花賞(ソダシ)、22年大阪杯(ポタジェ)など5つのG1競走含み25勝。JRA通算1100勝



は史上36人目で、現役では18人目。2004年3月6日の初騎乗から数えて1万2819戦目での達成。初勝利は04年4月24日(スターオブアディラ)。吉田騎手は「多くの騎乗機会に恵まれ、大きなケガをすることなくたくさん勝たせていただいています。これからも気を引き締めて頑張ります」とJRAを通してコメントしている。

### ○丹内祐次騎手がJRA通算400勝

8月21日、第2回札幌競馬4日目の第3競走でマイネルキング号(牡3歳、美浦・相沢郁厩舎)が1着となり、騎乗していた丹内祐次騎手(36歳、美浦・フリー)のJRA通算勝利数が400勝となった。重賞勝利は2021年目黒記念(ウインキートス)ほか、22年エルムS(フルデプスリーダー)など5勝。JRA通算400勝は現役で44人目。2004年3月6日の初騎乗から9591戦目での達成となった。初勝利は04年4月10日(スピードタイガー)。



丹内騎手は「(地元の)北海道で達成できるとは最高です。400勝できるとは思っていませんでしたが、変わらず頑張っていきたい」とJRAを通してコメントしている。

### ○モーリス産駒JRA通算200勝

9月4日の札幌競馬第3競走においてモーリス産駒のゲイングラウンドが勝利し、モーリス産駒のJRA通算勝利数が200勝となった。2020年6月6日の産駒デビューの日から数えて2年2か月と30日目での区切り勝利となった。モーリスは、札幌競馬場で行われた北海道市場トレーニングセール出身馬。現役時代の通算成績は18戦11勝2着2回3着1回(海外3戦3勝含む)。重賞初勝利はピクシーナイト(音無秀孝厩舎・栗東)による21年1月シンザン記念で、同G1勝利は同年10月、同馬によるスプリンターズS。これらを含め、200勝の中には8つのJRA重賞が含まれている。





# 2022年欧米 リーディングサイアー検証



海外競馬解説者  
合田直弘

【著者略歴】

1959年東京都出身。海外競馬解説者慶應大学卒業後、テレビ東京に入社。「土曜競馬中継」「馬・疾風ロマン」などの制作を担当。のち、1988年に同社を退社し、(有)リージェントを設立。テレビ、新聞、ラジオ、雑誌などで海外競馬の解説を行なっている。現在、グリーンチャンネル「ALL IN LINE!〜世界の競馬〜」「Go Racing!」などに出演。

この原稿は12月上旬に書いており、22年の競馬が終了したわけではないが、ほぼ確定している欧米サイアーランキングを検証したい。

英国と愛国の数字を合算したランキングでは、G I英二千ギニーなど2つのG Iを制したコリーバス、G Iプラティナムジュビリースを制したネイヴァルクラウン、G Iセントレジャーを制したエルダーエルダロフらを送り出したドゥバウイが首位に立った。英愛ランキング首位は、10年から20年まで11年連続でガリレオが独占。ガリレオが陥落した21年の首位はフランケ

ルで、従って06年に種牡馬入り馬入りした。初年度産駒からG Iサンチャユーロだった同馬の種付け料が、23年には7万5千ユーロと倍増になることが発表されている。

年目の産駒からも重賞勝ち馬2頭に加えてG I愛二千ギニー2着馬ニューエナジーが現れ、そのこの評価を受けていた。そのニューベイが競馬界を驚かせたハヴァナグレイ（父ハヴァナ

最優秀2歳牝馬に選ばれたエコドG I・2勝、アーリーヴォーイアーランキングは、G Iシャーズール、G IホープフルSテイニングがG IプリークネスSパンS勝ち馬ブレijingセ

勝ち馬が4頭の重賞を制するなど、圧倒的戦力を誇った。同馬のリーディングは、4年連続。近年では63年から69年まで7連覇したポールドルラー以来の記録となる。逆に言えば、3連覇で止まったダンジグやタピットを越えたわけで、北米競馬史でも屈指の各種牡馬として名が残ることになった。

この分野における赤丸急昇が、初年度産駒がまだ3歳にも関わらず、総合ランキングで3位に飛び込んだガンランナーだ。現役時代は19戦し、6つのG Iを含む12勝をマーク。G I BCクラシックなど4つのG Iを制した17年には、全米年度代表馬の座に就いている。

18年に種牡馬入りし、19年に生まれた初年度産駒が21年に競走年齢を迎えたが、ここから米

## 2022年英愛サイアーランキング

順位	獲得賞金 (万円)
1	Dubawi (by Dubai Millennium) £6,387,336
2	Sea the Stars (by Cape Cross) £5,054,148
3	Frankel (by Galileo) £5,053,284
4	Galileo (by Sadler's Wells) £4,164,751
5	Dark Angel (by Acclamation) £3,807,546
6	New Bay (by Dubawi) £3,274,685
7	Kingman (by Invincible Spirit) £3,194,762
8	Kodiac (by Danehill) £3,058,071
9	Lope de Vega (by Shamardal) £2,811,633
10	No Nay Never (by Scat Daddy) £2,639,528

## 2022年仏国サイアーランキング

順位	獲得賞金 (€)
1	Frankel (by Galileo) € 6,269,245
2	Siyouni (by Pivotal) € 2,999,650
3	Lope de Vega (by Shamardal) € 2,765,990
4	Churchill (by Galileo) € 2,713,275
5	Dubawi (by Dubai Millennium) € 2,223,033
6	Dabirsim (by ハットトリック) € 2,031,090
7	Kendargent (Kendor) € 1,737,990
8	Anodin (by Anabaa) € 1,655,300
9	Le Havre (by Noverre) € 1,593,605
10	Dark Angel (by Acclamation) € 1,563,190

## 2022米国サイアーランキング

順位	獲得賞金 (ドル)
1	Into Mischief (by Harlan's Holiday) \$25,850,029
2	Curlin (by Smart Strike) \$18,727,219
3	Gun Runner (by Candy Ride) \$14,311,582
4	Uncle Mo (by Indian Charlie) \$13,953,463
5	Tapit (by Pulpit) \$13,899,510
6	Munnings (by Speightstown) \$12,802,390
7	Not This Time (by Giant's Causeway) \$12,685,892
8	Speightstown (by Gone West) \$10,473,481
9	Quality Road (by Elusive Quality) \$10,288,750
10	Constitution (by Tapit) \$10,135,273

# 全日本的なダート競走の 体系整備、そのリスク面は



須田鷹雄

【著者略歴】

1970年東京生まれ。競馬評論家、ギャンブル評論家。中学生時代にミスターシービーをきっかけとして競馬に興味を持ち、1990年・大学在学中に「競馬ダントツ読本」(宝島社)でライターとしてデビュー。以来、競馬やギャンブルに関する著述を各種媒体で行うほか、テレビ・ラジオ・イベントの構成・出演も手掛ける。

前号の原稿を書いたあとに東京ダービーのダートグレード化などが発表され、さらに11月には「全日本的なダート競走の体系整備について」というより詳細な発表がなされた。前回書いたように、こういった施策を打たねばならない背景には中央競馬の馬房や出走枠が飽和していることがある。なんらかの方法で中央から地方に馬を流す、あるいは地方側でデビューさせることは必要だ。その意味でこの類の工夫をすること自体には肯定的な評価を前回の原稿でも書いた。

もちろん、良いことづくめの施策というのはこの世にないので、マイナス面もある。前は売り上げ下降期が続いて地方側の賞金水準が下がった場合、どう頑張っても中央に踏みとどまる馬が多くなる、という点を指摘した。

その後ダート競走の体系整備について正式な発表があったので、そのリスク面というか、理想通りにいかない可能性、将来に向けてマインスを残してしまう可能性についていくつか指摘してみたい。

ひとつは、3歳ダート三冠とそのプレップでかなりの数のレースがダートグレードになったことで、地方側・南関側のモチベーションが低下することだ。大手馬主・牧場と密接な関係にある厩舎はある程度抵抗できるだろうが、それ以外の厩舎は単に「ダービーを勝つ可能性を奪われた」ということになる。

南関以外の各場において生え抜きのスターが生まれにくくなることも考えられる。南関以外の8場に2歳・1着賞金1000万円・地元所属馬限定の「重賞級認定競走」が創設されること発表されているが、今のところ

生え抜き限定とは発表されていない。

中央デビュー馬が出走できないことは発表されているが地方デビューから移籍した馬が出走できるなら、おそらくホッカイドウ競馬や南関東からいまままでより強い馬が他地区に移籍することになる。場合によってはこの1レースだけつまみ食いすることや、10月中旬の岩手・笠松から11月上旬の佐賀へ渡り歩く移籍をする馬がいてもおかしくない(転籍後何走といった条件は発表されていない)。そのようなことになると、地元生え抜きの馬たちがレベルの高い転入馬にボコボコにされるというシーンが増えるわけで、その地区のブランドを棄損しかねない。ブロック制だが3歳の重賞級認定競走についても同様である。

そのような事態になると弱い地区の地元馬主が意欲を削がれるということにもなるだろう。

う。重賞級認定競走の問題だけでなく、JRAが理想とする「ダート馬は中央から地方へ」という流れが本当に定着すると、その影響で勝てなくなるのは牧歌的なオーナーシップで競馬に貢献してきた地方競馬側のローカル馬

主である。もちろん競争原理から言って「強い馬を持ってきた奴が偉い」というのは間違っていないのだが、将来賞金が下がると、襲来した黒船は去っていく。その時、牧歌的な地元馬主がキックアウトされたままになると、地方競馬の馬主不足に繋がってしまう。今回のデザインは資金力や人脈を豊富に持つ馬主に有利、地方で特定厩舎と紐づいているような小規模馬主に不利、という構造になっている。

最後にもっと大きな問題がある。仮にJRAの設計通りに事が運んで、優秀なダート馬が早期に地方転出したたり、最初から地方デビューを選んだりとする。すると中央の馬房が空くわけだが、そこに別ななかが入り込んでくる可能性は否定できない。

JRAは中長期的に調教師や馬房の数を減らす方向性だが、2023年からすぐに減るわけではない。その一方で馬房数に比例する形で在籍可能頭数は維持される。となると、空いたスペースに別な馬が入ってくる可能性があるのではないか。「別な馬」は、本来地方でデビューするはずだった馬、出戻っても1勝クラスで通用しないマル地などである。入ってくるだけでなく、中央は非競争的な賞典費

(手当や見舞金など)が大きいため、「地方に行っても稼げない馬が居座る」という現象も強化されうる。そうすると、JRAは膨大な予算を使って高資質なダート競走馬を地方競馬に献上したうえで、それより質の低い馬の流入や残留を招いて結局「ぎゅうぎゅう・パンパン問題」は維持されるということに繋がりがかねない。それを防ぐためには中央にも能力検査のようなものを設けるか、それが無理ならタイムオバー馬の処遇をもっと厳しくするといった発想が必要になる。大敗を続ける馬は出走奨励金が通減するとか、地方からの出戻り条件をいまより厳しくするとか、そういうことも検討しなくてはならないだろう。

そういった案は馬主の皆さんからすると「反馬主的」と捉えられるかもしれないが、馬房・出走枠問題というのはJRA対馬主の問題ではなく、実は馬主対馬主の問題なのである。288日×12レースが埋まっているいま、賞金・手当と出走機会は互いに矛盾する存在に なっている。なにを取ってなにを諦めるのかは馬主の側も考えざるをえないテーマになっていくだろう。



ふたつの道。幾千の夢。



# 馬上の景色

第13回

## 膨らむ新種牡馬への期待



競馬開催やセリの中止、延期といった「コロナ不況」から脱した後の初年となった2022年米国シーズン前半の話題のひとつに米国三冠馬ジャスティファイの初産駒デビューがあった。北半球の主要競馬開催国の中で最も早い（五月第一土曜日）時期に行われるダービー（※ケンタッキーダービー）だが、かつてその出走権は獲得賞金順で決められていた。そのため2歳の早い時期からデビューさせるといふ流れを生み、現行のルール下でも早めに使い始める馬主が少なくない。開催

場所によっては5ハロン以下の2歳戦を4月から組みステークス級のレースはその翌月から。それに先立つ、2歳馬調教セールでも売買双方から様々な新種牡馬の評価、風評が流され、米国競馬の春季はなかなか賑やかだ。繰り返すが、レース成績は「三冠制覇」で疑問の余地はない。現役時代572kgという馬体。初年度交配された252頭の繁殖牝馬がどのような2歳馬を生み出したかという興味は尽きなかった。

さて、本稿執筆時の昨年12月12日時点での2歳新種牡馬ランクで首位はボルトドロ、2位がグッドマジックでジャスティファイは\$216・196差の3位に付けている（※ブラッドホース誌統計による）。今季終了まで約2週間という段階で、この差額だが米国競馬関係者にしてみれば「僅差」と感じるのではないだろうか。それほど今年の2歳新種牡馬ランクの争いは激しかった。この3頭以外でも現在6位のシャープアステカが一時期首位となり、そしてアーミーミュールも急速に勢いを増して4位へ急上昇してきた。現在ジャスティファイ



吉田直哉

【著者略歴】

1968年北海道生まれ。1993年獣医師免許取得。1994年から3年間アイルランド、英国で牧場経営を学び、1997年から2年間米国ケンタッキー州ハグヤード診療所で研修後、父・重雄が経営していた吉田牧場で働く。2002年米国に進出。レキシントン市にウィンチェスターファームを設立し現在に至る。ケンタッキー州牧場経営者協会理事、ケンタッキー大学評議委員歴任。またJRA「優駿」誌、報知新聞、競馬ブックにも海外競馬情報を寄稿する。

を所有するクールモアスタッドは同馬の産駒を米国のみならず、自分達の拠点があるアイルランドでデビューさせ、その中のアスペングループがGⅢで優勝し産駒のレース適性の幅をアピールしている。日欧で勝ち上がっている産駒まで考慮すれば、同馬の評価はランク以上のものとも言えそう

だ。一方、本稿執筆時点で首位であるボルトドロは2歳時にGⅠ競走で2勝した駿馬だったが、翌年GⅡサンフェリペステークスの1勝のみで、やや地味な種牡馬生活を始めたと言って良く、良質の交配牝馬も集め難かったと推察できる。それが逆にボルトドロの遺伝力の高さの評価につながり、しかも春のクラシックにつながる1700mの重賞馬を3頭出し

ていることも素晴らしい。コロナの影響による苦しい2年間を送った米国馬産界だが、ようやく昨年

年から購買者の投資欲が戻り市場が回復してきた。好況期に総合順位上位種牡馬の産駒が高額取引されるのは他国と同様だが、新種牡馬への注目度が高いのもこの国の特徴だ。昨季の2歳新種牡馬達は絶妙のタイミングを



得て産駒がデビューし、その活躍が市場の偏りを軽減して「選ぶ楽しみ」を購買者、生産者に与えてくれたと思う。

一方、シーズン後半はブリーディングカップ・クラシックで優勝したフライトライン（5歳）に注目が集まった。3歳春にデビューして6戦全勝。うちGⅠ競走は4勝で、その4勝も7ハロンか10ハロンと幅が広い。そしてこの馬が注目を浴びた最大の理由は全戦圧勝のレースぶりである。日本

とは異なり、米国では「大差」とは記録されず正確な着差が発表されるのだがパシフィッククラシック（GⅠ）では2着馬に19馬身1/4を付けた。加えて引退後

待ち遠しい。アメリカンアラオ、ナイキスト、ノットディスタインから徐々に高まっていた2歳新種牡馬ランクへの大きな注目は、ジャスティファイの世代を経て、フライトライン等に引き継がれ、早くも2026年のレースシーズンが

行し、現在7月に行われているジャパンダートダービーを秋に移設。これら3競走をダート競馬における3歳ダート三冠競走として設立しようというもので、その他にも現在はJpnII格付けの「さきたま杯」を上半期における古馬短距離路線の頂点レースとしてJpnIに昇格させるなど、距離別、年齢別の競走体系を全国規模で見直そうというものだ。本会報誌では、その影響や未来図などについては別の方がすでに書いているので、ここでは、その決定に至る背景などを紹介したい。主な変更点については表を参照いただきたい。

その経緯と趣旨を説明する報道発表の中で印象に残るのは「ダート競走の中心的役割を担うべき地方競馬」というフレーズと「(前略)地方競馬が主体となってダート競走の体系整備を行う」というもの。その理由については「レースやレースの勝ち馬が国際的に正当な評価を得られていない」ことを挙げ、2028年から段階的に「Jpn表記」の使用を取りやめ、すべてのダートグレード競走を国際競走、すなわち「G競走」とすることを目指すという。

目指すところ、そして総論は大賛成。なぜならば、日本のダート馬は強い。それも

## 特集2

# これからのダート競馬について考える

この本を手取る方々にとつては文字通り釈迦に説法なのだが、言うまでもなく中央競馬と地方競馬は、その成り立ちから大きく違う。いささか古い資料で恐縮だが、大正14年に淀競馬場(現在の京都競馬場)が現在地に移転した際、それまでの慣行に従って、当時の京都競馬倶楽部は1日1レース限りの地方競馬開催を計画したが、昭和2年、畜産局長からの通牒により「公認競馬の競馬場を、地方競馬開催のために貸与しないように指示された」という。

それだけではない。その後も、公認競馬側の倶楽部役員が地方競馬に関与することが禁止されたほか、公認競馬出走馬が1度でも地方競馬への出馬登録を行った場合の再登録の禁止、あるいは公認競馬で騎乗経験がある騎手が地方競馬で騎乗した場合、公認競馬に戻って騎乗することができなくなるなど溝は深まるばかり。

昭和23年公布の新競馬法によって、法律上は一応の一本化を見たものの、その後も中央競馬と地方競馬の間には高く、厚い壁が存在し続けたことは周知のとおりである。

それゆえ、昭和48年10月21日、東京競馬場で行われた「地方招待競走」は画期的で、その翌年6月6日に大井競馬場で行われた「中央競馬招待競走」には当時の入場者レコードとなる7万6000人あまりが足を運んだという。この時、馬券を

売るために発走時刻が35分も遅延したというものが、時代を感じさせる話だ。

やがて、時代は昭和から平成へ。平成16年(2004年)6月に衆議院農林水産委員会で競馬法改正についての議論が行われた際、参考人として出席した白須敏朗農林水産省生産局長(当時)は民主党議員からの質問に対して「(前略)JRAと地方競馬というのはもちろん共存共栄が当然必要」としながら「一方にはお互いが競争相手というふうな面もあるわけでございます(後略)」と発言して物議を醸した。また、同参考人は当時の公明党議員からの質問に対して「今、地方競馬の収支が悪化しており、地方競馬と中央競馬会を一元化するということは、中央競馬会の経営を一層圧迫するということにもなるので適切ではない」とも発言している、キングカメハメハが圧倒的な強さでダービーを制した翌々日のことだ。

そして時代は令和へ。2022年11月28日、日本中央競馬会、地方競馬全国協会、全国公営競馬主催者協議会と全国地方競馬主催者が一堂に会して「全日本的なダート競走の体系整備について」の発表を行った。

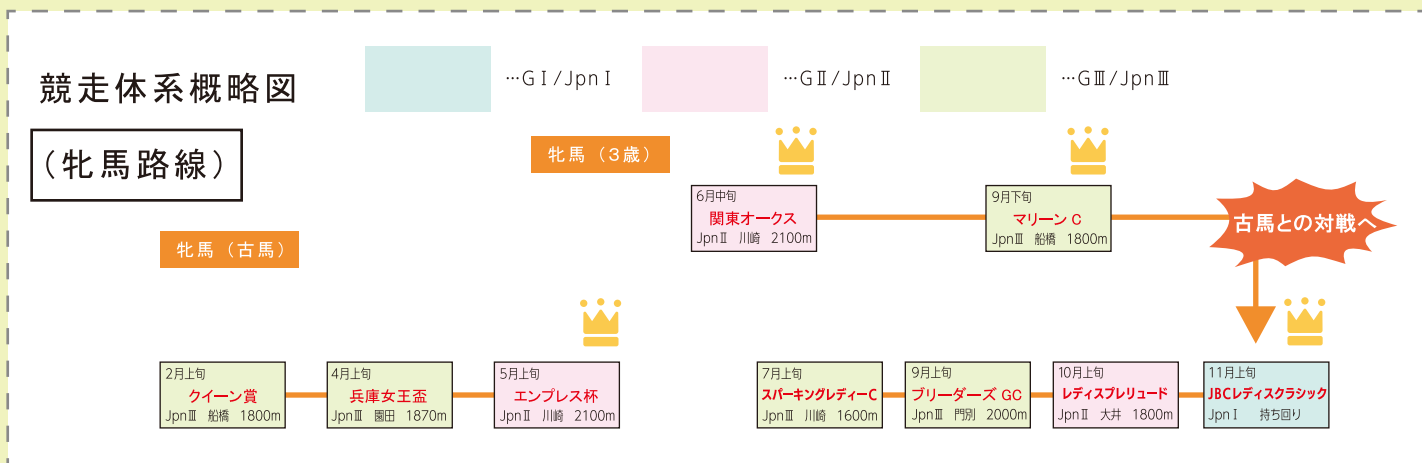
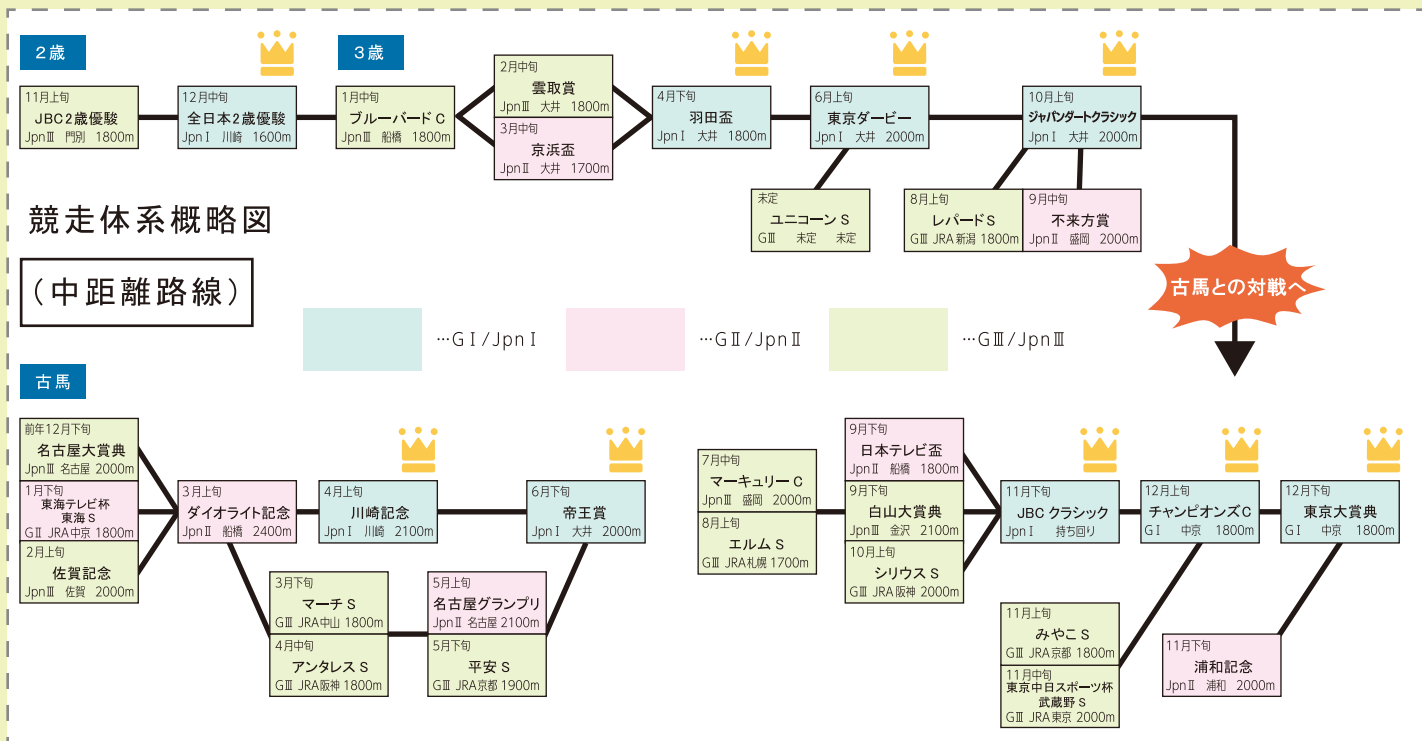
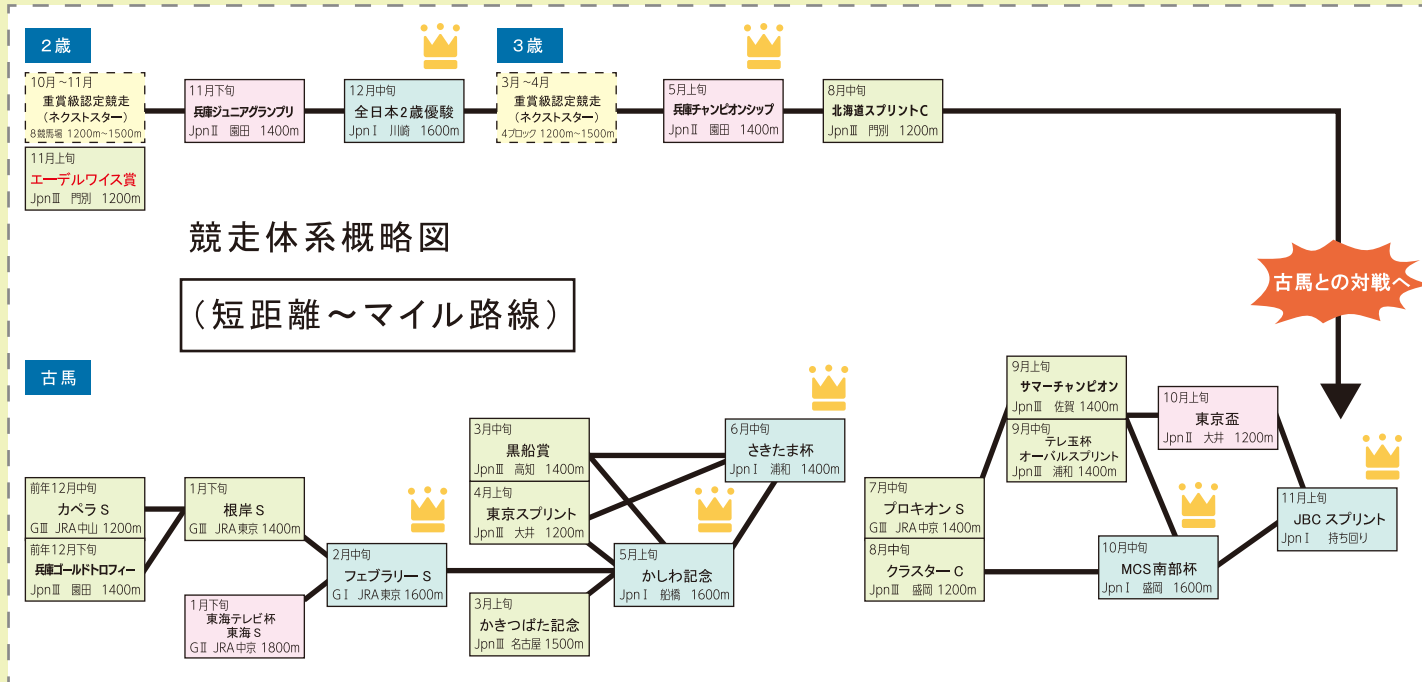
かなり大雑把に言えば、現在は南関東所属馬限定競走として行っている「羽田盃」「東京ダービー」をダートグレード競走のJpnIとして施

### 01 体系整備に伴う主な変更点

実施日	競走名	格	競馬場	距離	競走条件	負担重量	備考
1月17日	ブルーバードカップ	JpnIII	船橋	1800	3歳	別定	新規格付け
2月7日	クイーン賞	JpnIII	船橋	1800	4歳以上・牝	ハンデキャップ	12月上旬から変更
2月14日	雲取賞	JpnIII	大井	1800	3歳	別定	新規格付け
2月29日	かきつばた記念	JpnIII	名古屋	1500	4歳以上	グレード別定	ハンデから変更
3月6日	ダイオライト記念	JpnII	船橋	2400	4歳以上	グレード別定	定量から変更
3月20日	京浜盃	JpnII	大井	1700	3歳	定量	新規格付け
4月上旬	川崎記念	JpnI	川崎	2100	4歳以上	定量	1月下旬から変更
4月上旬	兵庫女王盃	JpnIII	園田	1870	4歳以上・牝	賞金別定	旧TCK女王盃 1月中旬から変更
4月下旬	羽田盃	JpnI	大井	1800	3歳	定量	新規格付け
5月上旬	エンプレス杯	JpnII	川崎	2100	4歳以上・牝	定量	3月上旬からグレード別定→定量に変更
5月上旬	名古屋グランプリ	JpnII	名古屋	2100	4歳以上	グレード別定	5月上旬から変更
5月上旬	兵庫チャンピオンシップ	JpnII	園田	1400	3歳	定量	1870mから距離変更
未定	ユニコーンS	未定	未定	1600	3歳	馬齢	別定から変更 東京ダービーの前哨戦として整備
6月上旬	東京ダービー	JpnI	大井	2000	3歳	定量	新規格付け
6月中旬	さきたま杯	JpnI	浦和	1400	3歳以上	定量	5月下旬からとJpnIに昇格 グレード別定→定量に変更
8月中旬	北海道スプリントカップ	JpnIII	門別	1200	3歳	グレード別定	6月中旬からと、3歳以上→3歳に変更
9月上旬	不來方賞	JpnII	盛岡	2000	3歳	定量	新規格付け
9月上旬	ブリーダーズゴールドカップ	JpnIII	門別	2000	3歳以上・牝	グレード別定	8月中旬から変更
9月下旬	マリーンカップ	JpnIII	船橋	1800	3歳・牝	定量	4月上旬からと、3歳以上→3歳に変更
10月上旬	ジャパンダートクラシック	JpnI	大井	2000	3歳	定量	旧ジャパンダートダービー 7月中旬から変更
11月上旬	エーデルワイス賞	JpnIII	門別	1200	2歳・牝	定量	10月中旬から変更
12月下旬	名古屋大賞典	JpnIII	名古屋	2000	3歳以上	ハンデキャップ	3月上旬からと、グレード別定→ハンデキャップに変更



特集2 | これからのダート競馬について考える



相当に強いと思う。しかし、それが正当な評価を得ているかといえば首をひねらざるを得ない。ちなみに、昨年、ジュンライトボルトが勝ったチャンピオンズカップの年間レースレーティングは116・25。最優秀ダートホースに選出されたカフェアラオが2連覇を果たしたフェスラリーSに至っては、同レース3着ソダシがヴィクトリアマイル優勝で獲得したレーティング(120)が加わっても同115・25。いずれも札幌記念(117・25)よりも下回るレーティングしか得られていないのだ。

こういったことを解消させるため地方競馬の充実が不可欠。そのため、優れたダート適性馬がその能力を十分に発揮できるような舞台(グレード競走)を地方競馬場に用意する。高ダート適性を持つ馬は地方競馬場からデビューしてください、ということなのだろ。なぜならば、現在、地方競馬場を舞台に行われているダートグレード競走(Jpn競走)は国際基準でいえば重賞どころが、リストッド競走(準重賞)よりも格下のLR(リストッド・リストロクテッド・Listed Restricted)制限付きリステッドレース)と分類され、高い評価(レーティング)は得られにくいからだ。

しかしながら、各論部分ではもろ手を挙げ

て賛成しにくい面もある。競馬法は「趣旨」として「地方財政の改善を図るため」とも記されており、「地方財政への寄与」が事実上の必須項目であることに変わりはないはず。日本グレード格付管理委員会が定めるところの同時に1着賞金および総賞金の最低基準が定められており、これをクリアしなければならぬ。つい数年前まで存廃議論に揺れていた全国地方競馬は「レース内容の充実」と「賞金の維持」という2つの重荷を背負うことになる。

いずれにしても「日本競馬の発展」は生産地のみならず全国に散らばるホースマンたちの共通の願い。中央競馬と全国地方競馬の主催者が、共通目的をもったことは大きい。現状では「両輪」と呼ぶには賞金格差の問題は、競馬場や調教設備の決定的な違い。あるいは馬主資格や騎手、調教師免許の問題など解決しなければならぬ問題は山積しているものの「芝とダートを両輪とする日本競馬の発展」に向けて大きな一歩を踏み出したことには間違いはない。会見では「全国地方競馬が一丸となって」というフレーズが繰り返されたが、日本競馬の発展のためには会見出席者全員が一丸となることを切に望みたい。

02 3歳ダート三冠路線におけるJRA所属馬の出走馬決定方法

時期	レース名	格	場所	距離	JRA枠	フルゲート
1月中旬	ブルーバードカップ	Jpn III	船橋	1800m	3頭	14頭
2月中旬	雲取賞	Jpn III	大井	1800m	3頭	16頭
3月中旬	京浜盃	Jpn II	大井	1700m	3頭	16頭
4月下旬	羽田盃	Jpn I	大井	1800m	4頭	16頭
未定	ユニコーンS	G III	未定	未定		
6月上旬	東京ダービー	Jpn I	大井	2000m	4頭	16頭
8月上旬	レパードステークス	G III	新潟	1800m		
9月上旬	不來方賞	Jpn I	盛岡	2000m	5頭	16頭
10月上旬	ジャパンダートクラシック	Jpn I	大井	2000m	7頭	16頭

①雲取賞、京浜盃 5着以内上位2頭  
②雲取賞、京浜盃 5着以内で①以外の馬  
③取得賞金順

①羽田盃 5着以内上位3頭  
ユニコーンS上位2着以内上位1頭  
②羽田盃 5着以内、ユニコーンS 2着以内で①以外の馬  
③取得賞金順

①不來方賞、レパードS 1着馬  
②取得賞金順

# 叶えた夢 そして更なる夢の続きへ



(株)スマイルファーム  
中村 広樹さん

日高町で「スマイルファーム」という名の生産牧場を営んでおります中村広樹です。札幌馬主協会には個人で平成27年、法人としては令和2年に入会させていただきます、現在は法人会員として在籍させてさせていただいております。個人馬主時代も含め、馬主としての実績はほぼゼロに等しい私に、このような機会を与えていただきましたこと、深く感謝申し上げます。

私は東京都出身で、馬とは縁も所縁もない家庭環境で育ちました。ただ、子供の時から動物が好きで、子供のころはテレビで放映されていた「ムツゴロウの動物王国」で働きたいと思っていただほどです。

意外に思うかもしれませんが、東京で

1番身近な動物は馬です。実家が大井競馬場のそばにあった事から厩舎で働く人たちの姿をずっと見ていましたし、そんな馬たちが走る競馬にも自然と興味を持つようになりました。どうしても実際のレースが見たいという気持ちを抑えきれずに、まだ高校生ではありましたが大井競馬場の門をくぐりました。忘れもしません1996年の帝王賞です。初めて間近で見る馬の大きさに驚き、優しい顔とレースで見せる迫力のギャップに感動を覚え、勝ったホクトベガの圧倒的な強さに心を奪われました。

「自分も、この仕事がしたい」

両親は、もちろん大反対でした。高校卒業後、1度は大学に入学したものの馬に対する思いを断ち切ることができず

に、最初の夏休み前に大学を中退。この世界へと飛び込みました。「たった1度の人生なのだから、悔いが残らないようにしたい」「馬の世界では学歴などは何の役にも立たない。それよりも1日でも早く経験を積みたい」と思ったからです。

何のつてもなく、ハローワークで出会った牧場は、生産と育成までを行う総合牧場でした。しかも、独立して間もない牧場でしたので、あらゆることを少数でやらなければならぬ環境でした。

大変ではありましたが、馬のそばにられるのは嬉しかったですし、今の自分にとっては、その時間が何よりも財産になっていきます。あの経験がなければ、今の自分はいないと思うほど感謝していま

す。

この世界に身を置くようになって感じたことは「周囲の人たちの暖かさ」です。牧場で働く人の笑顔が好きでしたし、生活の面でも身近にいる人たちには本当によくしてもらいました。

「スマイルファーム」という名前は「自分たちはもちろんですが、馬を通して私たちと関わる人たちが、みんな笑顔になれるような牧場にしたい」という思

いから名付けました。関わった人々を笑顔にしてくれるような馬を育てるために必要なことは、馬が人間と接するときストレスを感じないようにすることが大切だと思っています。

馬は人間の気持ちを汲んでくれる動物

だと思っています。笑顔が絶えないような牧場で生まれ育った馬は、次のステップへと移動しても元気一杯に走ってくれ

私は、牧場をスタートさせる時、たくさんの夢が目標がありました。具体的に言えば生産者として「セレクトセール」「セレクトションセール」に選んでもらえるような馬を生産すること。自分が育てた馬が、購買者の方から評価されるような馬を生産すること。そして、みんなを笑顔にできるような馬を生産すること。2023年中山金杯に勝利したラーグルフは、そんな夢を兼ねてくれた1頭です。



生産馬を上場させるのが夢だったというセレクションセール(ラーグルフ)



スマイルファーム生産馬として重賞勝ち馬第一号となったラーグルフ

▽2023年1月5日中山競馬場(晴れ、良)

### 第72回中山金杯(GIII、4歳以上 ハンデ) 芝2000m

着順	馬名	性別	斤量	騎手(所属)	タイム	調教師	人気
1着	ラーグルフ	牡4	56	戸崎圭太	2.00.2	美・宗像義忠	1
2着	クリノプレミアム	牝6	55	M.デム一口	ハナ	美・伊藤伸一	7
3着	フェーングロッテン	牡4	56	松若風馬	頭	栗・宮本博	2
4着	アラタ	牡6	57	横山武史	クビ	美・和田勇介	5
5着	マテンロウレオ	牡4	57.5	横山和生	クビ	栗・昆貢	3

開業して10年少々。今、こうして振り返ると私は、周囲の人たちに恵まれていたと思います。支えてくださった方々、応援して下さった方々。そして何よりも一緒に頑張ってくれた家族。どれ一つ欠けても、続けてこれなかったかもしれません。

スタートするときには不安しかありませんでしたが、私の夢はまだここで終わりではありません。その夢を叶えるため、これから家族みんなを力合わせて出来る事を精一杯にやり続けたい。そう思っています。

# 馬が、 人生を豊かなものにしてくれた



浅沼 廣幸さん

UAEダービーはデルマルルーヴルでも挑戦（4着）したレースだったんです。サウジダービーからの転戦になりましたので、今後のことは馬の状態次第だと思っていました。体調も良さそうですし、周囲の勧めもあってケンタッキーダービーへと向かうことになりました。もちろん、レースの結果も楽しみにしていますが、今回の結果で来年のサウジカップ、ドバイワールドカップデーに招待されそうなもの、嬉しいです。

昨年、デルマソトガケで全日本2歳優駿を勝ったのが、私にとっては初めてのJpn Iタイトルでした。もちろん、レースに勝ったことも嬉しかったですが、それ以上に周囲の人が喜んでくれたのが嬉しかったです。嬉しかったし、ありがたいと思いましたが、馬と一緒に写真を撮って、そのあ

持てるようになりました。いろいろな経験をさせてもらって、人生を豊かなものにしてくれたと、そう思います。真面目が悪いわけではないと思いますが、真面目に仕事だけやっていたら、こうはいかなかったと思っています。

馬券も、馬選びも一緒に、勘だけで当た



日本産馬として初めてUAEダービーを勝ったデルマソトガケ

とみんな喜びを分かち合う。どのレースでもそうですが、あの時間が一番嬉しい。馬主やっていて、一番幸せを感じる時間です。

競馬は、アカネテンリュウ、ダテテンリュウの頃からですから、もう50年以上。開業医という仕事柄、なかなかまとまった休みも取れませんし、休みが土曜日、日曜日しかない。競馬はちょうど良い存在でした。それに、何よりも馬券という遊びが好きでした。ギャンブルは何でも好きなのですが、馬券というものは馬が走るだけではなく、いろいろな人が関係して、ゲーム性が高いところが魅力だと思っています。生産者がいて、調教師、騎手がいて、そして馬主がいる。単なる数字合わせ的な博打ではない部分が非日常的なゲームとしてはとても刺激的だと思います。それに、

することもあるかもしれないですが、きっとそれでは長くは続かない。でも、最後は勘だと思えます。だから、楽しい。今も、馬のことは良くわからないですが、最初の頃は本当に何もわからなかったので色々な人にアドバイスをもらったりもしました。

でも、最近は馬選びに関しては色々なことを考えた上で、最後は自分の直感を信じるようにしています。それと、値段。デルマソトガケはセレクトセールの場合で出会った馬なのですが、たまたま自分の繁殖牝馬に配合したマインドユアビスケッツが不受胎だったんです。そんなこともあって目に留まりましたし、価格的にも予算内で収まる馬でした。その時は、まさかUAEダービーを勝てる馬だとは思いませんでしたけど、長くやっている、たまにはよい事もあると思っただけです。ただ、そういう選び方をしているので、中には「なんであんな馬を選んだんですか」と言われてしまうような馬もいますが、自分で選べば、たとえ損をしても自分の責任。そう思っています。

値段については、高額馬を欲しがるとな方もありますが、私なんかはあまり高い

その頃は8枠といっても12頭立てくらいで単勝、複勝と、枠連しかない時代。それなりに当たりましたし、当たれば楽しいものです。

その当時、開催中の札幌競馬場に遊びに行く、スタンドの上の方（馬主席）から歓声や、「やられたー」なんて声とともに、長いロールの馬券なんか降って来るのです（笑）。今なら怒られそうな話ですが、そんな風景を見ながら「なんだか、楽しんで医者として働き始めてしばらくした頃には、もう馬主になろう、そう思っていました。

実際に馬主になったあとも、その気持ちは変わりませんし、やはり楽しいです。おかげで仲間がたくさん出来ましたし、馬という共通の話題で、たくさんの人と交流を馬は精神的にしんどくなるので、1勝、2勝で楽しめるような価格の馬を選ぶようにしています。馬で儲けようとは思っていないけど、まったく走らないのも楽しくない。そう思っていますので、背伸びをしない範囲で楽しませてもらっています。

今はもう仕事からもリタイアしていませんので、競馬を開催している土曜、日曜が生活の中心になりました。もし、競馬がなければ退屈な人生になっていたと思います。競走馬は計算できないところが、面白いと思っています。馬主になって40年近くになりますが、まだJRAの重賞競走に勝っていません。当面の目標はJRAの重賞競走です。今はデルマソトガケがいてくれますが、やはりメイン競走に出走できるような馬がいると楽しいです。これからデルマソトガケに続くような馬が出てきてくれると嬉しいですし、そういう馬と巡り合えるように、今年もまた、セリ場に足を運びたいと思っています。

\*このインタビューは3月10日に行いましたが、その後の結果を受けて加筆しました。

## 要 望 書

ここ札幌競馬場は明治40年(1907年)に、函館競馬場は明治29年(1896年)に現在地に設置されてから各競馬場は来年116年と127年を迎え、特に函館競馬場は日本に現在残っている競馬場のなかでは最も古い歴史をもつ競馬場です。

近年、北海道は国内外から注目され、温暖化による気温上昇が問題となっていることから、夏は冷涼で過ごしやすく、冬は雪文化を中心としたイベントなどにより、特に札幌はオリンピック開催都市、函館は世界三大夜景の街と認知されているところです。また函館は北海道と本州を結ぶ交通結節点であり、平成28年に北海道新幹線が開通、令和12年(2030年)には札幌に延伸予定、空の玄関口として「新千歳空港・函館空港」があり、国内外から来道される人々にとって交通便利の良さがあります。

競馬に目を転じますと、函館は平成22年(2010年)、札幌は平成26年(2014年)に各々スタンド改築後、今や札幌市・函館市にとって大変貴重な観光資源となっておりますこと、貴会には深く感謝申し上げます。「盛夏」の短い両市において両競馬場は、市民はもちろん全国からの観光客のみなさんも涼風を体感しながら「夏」を満喫できる「避暑地の憩いの場」であり、貴会が運営されている全国10競馬場の中でも、とりわけ女性や子どもたちの来場割合が高くなっております。「リゾート(保養地、避暑地)競馬」の特色ある開催は、両市での特別なイベントであると認識しております。

また、本年6月からの函館開催においては、入場制限のない開催がおこなわれ、函館記念(GⅢ)には白馬・ハヤヤッコ号が勝利、本年の札幌記念(GⅡ)にはGⅠ馬5頭と白馬2頭が出走し、白熱したレースがおこなわれ、活気あふれる北海道開催となりましたが、残念ながら現開催は、過去32日間開催されていた時より6日減の26日間で開催されているところであります。

北海道シリーズで出走した2歳馬及び古馬は秋の主場開催で好成績をあげ中央競馬を盛り上げていることは事実であること、冷涼な気候で洋芝コースを持つ両競馬場はアジア・オセアニアからの海外馬にとっても出走しやすい時期と立地を兼ね備えており、国際招待競走の充実を図ることにより、国際色豊かな夏の祭典となることは言うまでもなく、これまで以上に競馬の魅力を発信できる舞台になるものと確信しております。

長年に亘る貴会の札幌・函館競馬運営に対し、敬意を表しますとともに、今後の持続的発展に向け、札幌市、函館市、札幌観光協会とも引き続き、そのサポートに尽力させていただき所存でございます。

つきましては、以下の要望事項について何とぞ実現していただけますよう特段のご高配を賜りたく、宜しくお願い申し上げます。

## 要 望 事 項

### 1. 北海道シリーズの開催日数の拡大と交互開催

- 開催日数を現行の「3開催26日間」から「4開催32日間」に戻し、北海道シリーズを充実していただきたい
- 北海道シリーズの充実した競馬施行と、良好な馬場状態維持・確保のため「札幌・函館交互開催」と、2歳の早期入厩促進と健全な競走施行のため函館ウッドコース活用と、札幌と同時運用することにより、出走頭数の確保が可能となることから、開催期間中「札幌・函館両施設の同時入厩・退厩及びトレーニング施設」を全面開放いただきたい。

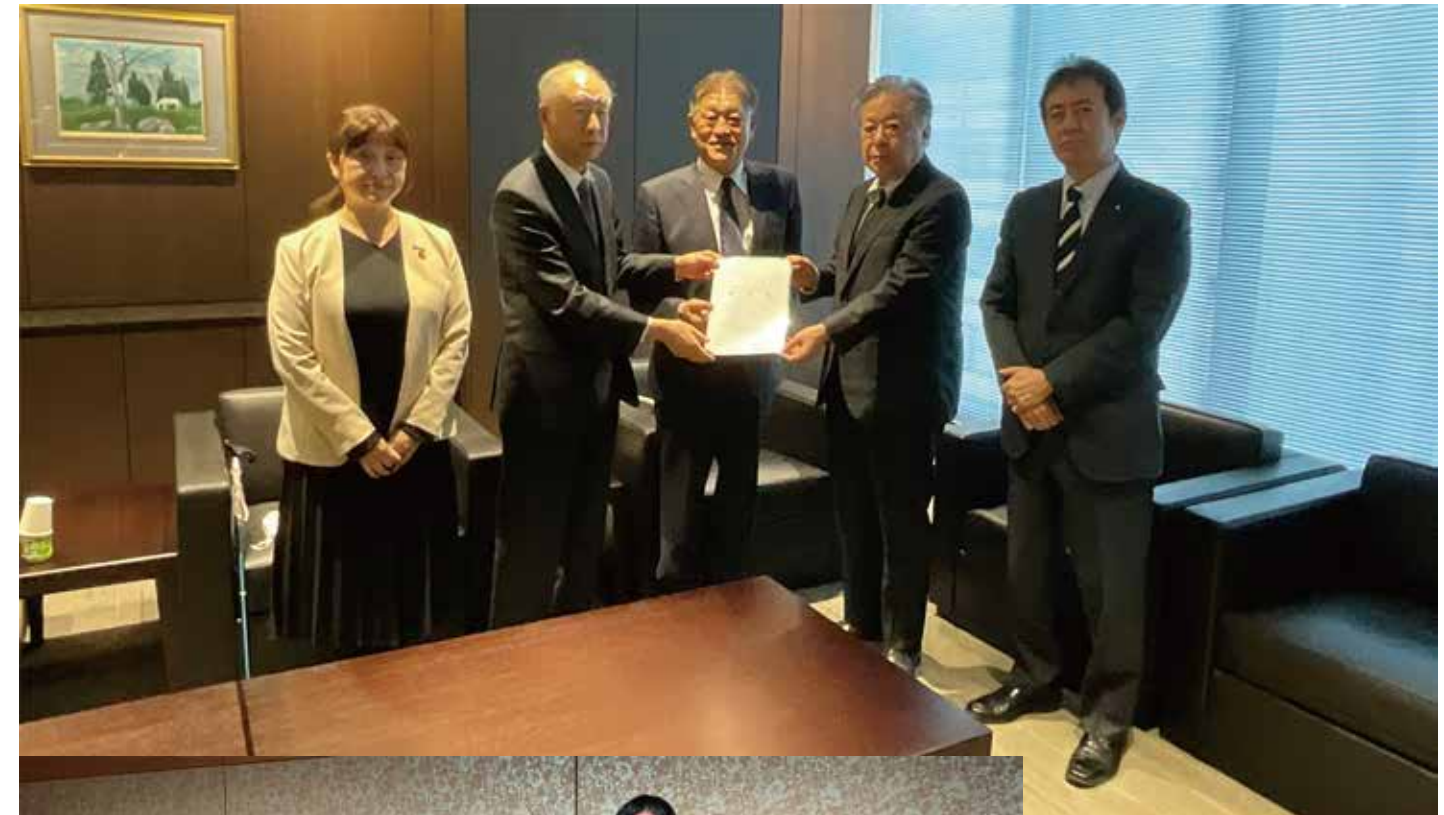
### 2. 国内外の競馬ファンに対し魅力ある番組編成と施設の有効活用を図り、馬産地北海道として特色ある競馬の開催

- 夏季競馬の最高峰のグレード競走として札幌記念をGⅠに昇格していただきたい。
- 函館開催にグレード競走の新設をしていただきたい
- 札幌・函館で行われる重賞競走を国際招待競走とし、シリーズ終盤に札幌記念とワールドオールスタージョッキーズとともにインターナショナルウィークとして番組・イベントの充実を図っていただきたい。

令和4年12月8日

一般社団法人札幌馬主協会  
会長 岡田 牧雄

一般社団法人函館馬主協会  
会長 河内 孝夫



12月8日、当協会と(一社)函館馬主協会(河内孝夫会長)と連名で日本中央競馬会の後藤正幸理事長及び札幌競馬場の越智直弘場長、函館競馬場の工藤偵康場長に対して「北海道シリーズの発展に関する要望書」を提出しました。

要望書の内容は「北海道シリーズの開催日数の拡大と相互開催」及び「国内外の競馬ファンに対して魅力ある番組編成と施設の有効活用を図り、馬産地北海道として特色ある競馬の開催」です。

また、これに先立ち、札幌市(秋元克広市長)、札幌商工会議所(岩田圭剛会頭)、(一社)札幌観光協会(長野実会長)及び函館市(工藤壽樹市長)、函館商工会議所(久保俊幸会頭)、函館国際観光コンベンション協会(森健二会長)から、これら要望書に対して「札幌、函館両競馬場は市民はもちろんのこと、道内外から多くのファン、観光客が訪れる場所でもあり両市の魅力向上と経済・観光産業の活性化に欠かせないもの」として要望書に対する賛同書も後藤理事長以下3名に対して提出されました。

「北海道シリーズの開催日数の拡大と交互開催」  
「馬産地北海道として特色ある競馬の開催」

連名で要望書を提出

ただし、G I 競走への格上基準は主催者から申請のあった競走について「当該レースが2年以上同条件で施行されていること」「昇格年度の賞金が条件を満たしていること」「パターンレースレーティングおよび直近の年間レースレーティングが基準値以上であること」に加えて「日本グレード格付管理委員会が全会一致の承認を得ること」となっており、その後アジア、オセアニア等の格付け統括機関であるアジアパターン委員会の承認が必要となっています。札幌記念の場合は「2006年以降、スタンド改修工事の13年以外は芝2000mの定量戦

最後にG I 競走となるための条件をもう一度確認したいと思えます。日本のグレード格付けは、その1着賞金(及び総賞金)とレースレーティング(及びパターンレースレーティング)を原則として満たさなければなりません。2009年から日本中央競馬の番組企画部に事務局を置く「日本グレード格付管理委員会」によって管理されています。この団体はJRA日本中央競馬会とNAR地方競馬全国協会がそれぞれ2名、日本軽種馬協会、アジア競馬連盟の、日本代表国際格付番組企画諮問委員会から1名と、同日本代表ワールドベストレースホースランキング委員会から1名の計7名で構成されているものですが、葵ステークスのG III格上は「待った」をかけたように独立機関の側面も持つています。

2022年レースレーティング

レース名	格	場所	月日	距離	レーティング
皐月賞	G I	中山	4月16日	2,000芝	121.00
天皇賞(秋)	G I	東京	10月29日	2,000芝	120.75
ジャパンC	G I	東京	11月26日	2,400芝	120.75
有馬記念	G I	中山	12月24日	2,500芝	120.50
東京優駿	G I	東京	5月28日	2,400芝	120.50
宝塚記念	G I	阪神	6月25日	2,200芝	120.00
安田記念	G I	東京	6月4日	1,600芝	119.25
マイルChS	G I	京都	11月19日	1,600芝	119.25
大阪杯	G I	阪神	4月2日	2,000芝	117.50
NHKマイルC	G I	東京	5月7日	1,600芝	117.25
<b>札幌記念</b>	<b>G II</b>	<b>札幌</b>	<b>8月20日</b>	<b>2,000芝</b>	<b>117.25</b>
毎日王冠	G II	東京	10月8日	1,800芝	117.25
富士ステークス	G II	東京	10月21日	1,600芝	117.00
チャンピオンズC	G I	中京	12月3日	1,800ダ	116.25
金鯨賞	G II	中京	3月12日	2,000芝	116.25
天皇賞(春)	G I	京都	4月30日	3,200芝	116.00
菊花賞	G I	京都	10月22日	3,000芝	115.50
鳴尾記念	G III	阪神	6月3日	2,000芝	115.50
フェブラリーS	G I	東京	2月19日	1,600ダ	115.25

2020~22年平均レースレーティング

レース名	格	場所	月日	距離	レーティング
天皇賞(秋)	G I	東京	10月29日	2,000芝	122.50
ジャパンC	G I	東京	11月26日	2,400芝	122.17
有馬記念	G I	中山	12月24日	2,500芝	121.75
安田記念	G I	東京	6月4日	1,600芝	120.75
大阪杯	G I	阪神	4月2日	2,000芝	119.67
マイルChS	G I	京都	11月19日	1,600芝	119.50
東京優駿	G I	東京	5月28日	2,400芝	119.42
宝塚記念	G I	阪神	6月25日	2,200芝	119.33
皐月賞	G I	中山	4月16日	2,000芝	118.75
天皇賞(春)	G I	京都	4月30日	3,200芝	117.08
<b>札幌記念</b>	<b>G II</b>	<b>札幌</b>	<b>8月20日</b>	<b>2,000芝</b>	<b>116.92</b>
菊花賞	G I	京都	10月22日	3,000芝	116.00
毎日王冠	G II	東京	10月8日	1,800芝	115.75
オールカマー	G II	中山	9月24日	2,200芝	115.67
金鯨賞	G II	中京	3月12日	2,000芝	115.50
高松宮記念	G I	中京	3月26日	1,200芝	115.25
NHKマイルC	G I	東京	5月7日	1,600芝	115.17
チャンピオンズC	G I	中京	12月3日	1,800ダ	115.08
富士ステークス	G II	東京	10月21日	1,600芝	115.08

2020~2022年平均レーティング116.92と確定!  
札幌記念レースレーティング

年	1着馬	年間R	2着馬	年間R	3着馬	年間R	4着馬	年間R	ファイナルR
2018	サングレーザー	120	マカヒキ	115	モズカッチャン	116	サウンドオブアース	114	116.25
2019	ブラストワンピース	120	サングレーザー	119	フィエールマン	119	ワグネリアン	117	118.75
2020	ノームコア	121	ペルシアンナイト	115	ラッキーライラック	120	ポンテザール	110	116.50
2021	ソダシ	119	ラヴズオンリーユー	122	ペルシアンナイト	115	マイネルウィルトス	112	117.00
2022	ジャックドール	118	パンサラッサ	120	ウインマリリン	118	アラタ	113	117.25

※牝馬のレーティングは4ポンド加算

特集3 札幌記念G I 昇格への道

史上初の白毛馬対決、そしてダービー馬マカヒキ、オークス馬ユーバーレーベンなど国内外のG I 優勝馬5頭が顔をそろえて大きな話題と注目を集めた第58回札幌記念は、春シーズンの金鯨賞をリード勝ちしたジャックドールが、好位追走から逃げ粘ろうとするパンサラッサを力でねじ伏せるようにして先頭ゴールイン。父モーリスが涙を飲んだ大舞台で、その雪辱を果たしました。

2着パンサラッサは、次走の天皇賞・秋で、この年の年度代表馬となるイクイノックスの2着と好走し、3着ウインマリリンはエリサベス女王杯2着のあと香港ヴァーズに優勝。このレース4着だった当協会所属の村田能光氏所有馬アラタも、秋の福島記念で3着と力のあるところを見せてレースレーティングを支えてくれました。

この結果、昨年の札幌記念のレースレーティングは117・25となり、昨年のG II、G III競走においてはサリオスがレコードタイムで勝利した毎日王冠と並んで最高値タイ。そして、G I レース昇格への基準となる近3年間の平均レーティングも116・92となり、G I 昇格のために必要な「115」を5年連続でクリアすることとなりました。その数字からは古馬最高の栄誉と謳われる天皇賞・春の3年平均(117・08)と比べても遜色のないレベルであることがう



▽2022年8月21日 札幌競馬場(晴れ、良)

第11競走 第58回札幌記念(G II、3歳以上、定量) 芝2000m

着順	馬	馬名	性別	年齢	斤量	騎手	厩舎	タイム	人気	レーティング
1	4	ジャックドール	牡	4	57	藤岡佑介	栗・藤岡健一	2.01.2	3	118
2	3	パンサラッサ	牡	5	57	吉田豊	栗・矢作芳人	クビ	2	120
3	9	ウインマリリン	牝	5	55	松岡正海	美・手塚貴久	1 1/2	5	114(118)
4	12	アラタ	牡	5	57	横山武史	美・和田勇介	クビ	12	113
5	10	ソダシ	牝	4	55	吉田隼人	栗・須貝尚介	1 3/4	1	116(120)

かがい知れます。ちなみに、この過去3年平均の116・92というレーティングはG II、G III競走においては、もちろん単独1位。1着賞金7000万円という1着賞金もG I 競走以外では最高賞金です。誰も認める「G I 競走に限りなく近いG II競走」なのです。

JRAのG I 競走は「2月から6月」そして「10月〜12月」に集中しています。シーズンオフがなく「毎週走り続けている」ことをスローガンに抱えているからこそ、ひと足早い秋を感じさせる8月の札幌で行われるG I 競走は必要かと考えますが、いかがで



## ひだか・ホース・フレンズ

場所：日高軽種馬農協門別種馬場跡施設  
(北海道沙流郡日高町緑町)

概要：主厩舎 10 馬房、隔離厩舎 5 馬房  
放牧地 7 面、倉庫、旧診療所  
研修生宿舎 (最大収容 3 名・男女別で運用)

アクセス：日高自動車道「日高門別IC」から車で 5 分

### 主な在厩馬

- ディーブスカイ (騾 18 歳、引退種牡馬)
- メイショウサムソン (騾 20 歳、引退種牡馬)
- メイショウボーラー (騾 22 歳、引退種牡馬)
- メイショウアイアン (騾 13 歳、引退競走馬)
- コンドルショット (牝 22 歳、引退繁殖牝馬)

## 日高の救世主になれるだろうか。

2021年に日高軽種馬農協門別種馬場の跡施設を利用してスタートした「ひだか・ホース・フレンズ」は、軽種馬生産界の発展継続を目的に、担い手、後継者、労働力などの不足に悩む馬産業への就業を支援する「軽種馬人材養成事業」、馬産業への理解を深める「馬産業の啓蒙普及事業」、及び「引退競走馬の利活用推進事業」など実馬を活用した各種事業に取り組んでいる。事業主体となっているのは日高軽種馬農協、日高管内各町及びJAなど27

団体で構成される「日高軽種馬振興対策推進協議会」で、実務に当たっているのは同協議会から委託を受けている日高軽種馬農協。同農協では、飼養管理及び指導スタッフとして2名の職員を雇用し、受け入れていく引退競走馬の預託料や各種助成金などを原資に運営にあたっている。

担当する小島業務部長は「これまで支援いただいた日高町及び(公社)全国乗馬倶楽部振興協会には深く感謝しております。23年からは競走馬生産振興事業からも支援いただける予定で、内容を充実させたいと考えています。21年秋から23年春までの期

間で、2泊3日以上からの体験コースは10代から40代の28人の方にご利用いただいています。牧場へ就職を決めた方もいれば、JBB A日本軽種馬協会が行う生産育成技術者研修へと進む方もおり、馬産業への入門編、入り口としての機能は果たせていると思います」と手応えを感じ取っている。

また、昨年11月には「ひだかうまキッズ探検隊」に参加する小学生15名の見学を受け入れ、同施設で余生を送っているメイショウサムソンやデイーフスカイ、メイショウボーラーなどを紹介。馬産業に対する啓蒙活動も行っている。

## 特集 4

## ひだか・ホース・フレンズの取り組み

引退競走馬の利活用・人材養成・馬事普及



売上はレコードを更新し続ける競走馬市場、そして増え続ける生産頭数など生産地を取り巻く状況は一見すると明るい未来に満ちているように見えるが、数年前、いや数十年前から高齢化、後継者不足、働き手不足が大きな問題となっている。そして、ここ数年世界レベルで顕著な問題となっているのが引退競走馬のセカンドキャリアに関する問題。IFHA(国際競馬統括機関連盟)は、引退競走馬の適切な処遇に「最大限の努力を払うこと」を競馬主催者に求めており、平成29年(2017年)5月には、競走馬のアフターケアのレベルアップを図るべく国際レベルのフォーラム(IFAR)が発足。JRAもこの問題に取り組んでいる。

4月13日に開幕したホッカイドウ競馬の令和4年度開催は3年ぶりにシーズンを通しての有観客レースを実施。11月10日に15開催85日間の全日程を終了させた。開催期間中の総売り上げは527億7857万5710円（※SPAT4LOTTOを含む）となり、計画比120・18%、前年比100・92%。3年連続の売上げレコード更新となった。なお、リーディングトレーナーにはシーズン最多勝記録を更新した14勝の田中淳司調教が8年連続8回目。リーディングジョッキーには137勝の落合玄太騎手が初のタイトルに輝いている。しかし、その一方で1日あたりの発売額は前年比97・4%と割り込んだ。その要因のひとつに挙げられるのが出走頭数の減少だ。濃霧により3競走が中止となったのは残念だったが、開催を3日間増やしたにも関わらず、年間を通したレース数は9レースしか増やすことができず、それを含めても延べ出走頭数で246頭減。1レースあ

たりの出走頭数は9・7頭から9・3頭へ減少（前年比95・9%）した。こうした結果に北海道農政課競馬事業部の赤池政彦部長も「売上げが史上最高額を超えたのは嬉しい限り。競馬を盛り上げてくれたのは嬉し関係者に感謝したい。しかし、その一方で春先の出走馬の不足や、他場におけるナイター開催の拡大などもあり、売上げの伸びに懸りが見えてきたのも事実」と危機感を示している。

最大のネックとなっているのは「強いホッカイドウ競馬」と「賞金」のギャップ。もちろん、主催者側もただ手をこまねているわけではなく、令和4年度の開幕前には2歳認定競走や3歳条件競走、および重賞競走の一部の本賞金を増額させたほか、重賞競走における着外手当の新設、後半3馬への奨励金、輸送補助費などを継続実施したが、劇的な効果は得られなかった。

### ■ホッカイドウ競馬2023年重賞日程

月日	競走名	グレード	競走種別	距離	着賞金 (円)	変更点
4月27日	エトワール賞	H3	3歳上	ダ1200	5,000,000	↑2,000,000
5月4日	北斗盃	H3	3歳	ダ1600	5,000,000	
5月11日	コスモバルク記念	H2	3歳上	ダ1800	6,000,000	↑1,000,000
5月25日	ヒダカソウカップ	H3	3歳上・牝	ダ1600	5,000,000	
6月1日	北海道スプリントC	JpnIII	3歳上	ダ1200		
6月15日	北海優駿	H1	3歳	ダ2000	10,000,000	
6月22日	赤レンガ記念	H3	3歳上	ダ2000	5,000,000	
6月27日	栄冠賞	H2	2歳	ダ1200	5,000,000	↑1,000,000
7月4日	G門別スプリント	H3	3歳上	ダ1000	5,000,000	
7月6日	ノースクイーンカップ	H2	3歳上	ダ1800	6,000,000	↑1,000,000
7月13日	リリーカップ	H3	2歳・牝	ダ1200	4,000,000	↑1,000,000
7月27日	サッポロクラシックC	H3	2歳	ダ1700	4,000,000	↓1,000,000
8月10日	ブリーダーズGJr.C	H1	2歳	ダ1700	5,000,000	
8月15日	星雲賞	H3	3歳	ダ1600	5,000,000	3歳馬限定
8月16日	旭岳賞	H3	3歳上	ダ2000	5,000,000	
8月17日	ブリーダーズゴールドC	JpnIII	3歳上・牝	ダ2000		
8月24日	フルールカップ	H3	2歳・牝	ダ1000	4,000,000	↑1,000,000
8月29日	王冠賞	H2	3歳	ダ1800	6,000,000	↑1,000,000
9月6日	フローラルカップ	H3	2歳・牝	ダ1600	4,000,000	↑1,000,000
9月7日	イノセントカップ	H3	2歳	ダ1200	4,000,000	↑1,000,000
9月14日	ウポポイAスプリント	H2	3歳上	ダ1200	6,000,000	↑1,000,000
9月20日	サンライズカップ	H1	2歳	ダ1800	10,000,000	↑5,000,000
9月28日	瑞穂賞	H2	3歳上	ダ1800	6,000,000	↑1,000,000
10月5日	ネクストスター門別	H1	2歳		10,000,000	新設
10月11日	プロッサムカップ	H2	2歳・牝	ダ1700	5,000,000	
11月1日	エーデルワイス賞	JpnIII	2歳・牝	ダ1200		
11月3日	JBC 2歳優駿	JpnIII	2歳	ダ1800		
11月8日	道営スプリント	H1	3歳上	ダ1200	10,000,000	
11月9日	道営記念	H1	3歳上	ダ2000	20,000,000	

そこで同競馬は令和5年シーズンを前に重賞競走をはじめとする多くの競走で本賞金を拡充させるなどのほか、昨年の閉幕日まで在籍していた2歳馬が転厩せず第2回開催までに出走した場合に支払う「冬季在厩3歳馬手当」を新設。また、在厩を促すためホッカイドウ競馬に在籍したまま他場の重賞競走出走する場合、その輸送費の一部を補助するなど、更なる困り込みの方策に出た。その効果に期待したいところだ。

しかし、ここにきて出走頭数の確保以上に深刻なものとして浮かび上がってきたのが深刻なジョッキー不足だ。長くホッカイドウ競馬のトップジョッキーとして活躍した五十嵐冬樹騎手が調教師へと転身。また今シーズンの飛躍が期待された山本咲希到騎手も兵庫競馬へと移籍。これによってホッカイドウ競馬の所属騎手は、50代となるベテランジョッキー3人と22年度の勝利数が1桁の4人（重複含む）を含めた17人となってしまった。もはや、自前のジョッキーだけではフルゲートになるような重賞競走が組めないようなところまで来てしまった。新人騎手が入ることが伝えられて



2022年札幌開催でホッカイドウ競馬所属の2歳馬は特別戦2勝とレベルの高さを見せたが...



調教師に転向した五十嵐冬樹騎手（当時）とJRA競馬学校への入学が決まった愛娘のひなちゃん

いるが、過度な期待はかわいそうというもの。決して胡坐をかいていたわけでもないのだが、馬がいて、ジョッキーがいなければ競馬ができないのも事実。一朝一夕には解決できない問題では強いリーダーシップが求められるところだ。

### ■ホッカイドウ競馬発売成績累年比較

年度	開催日数	総入場者数	発売金額	1日あたり発売額	計画対比	前年対比	開催競馬場
2011	15開催80日間	348,128	11,571,375,600	144,642,195	102.7%	102.5%	門別
2012	15開催80日間	299,564	11,999,871,700	149,998,396	100.1%	103.7%	門別
2013	15開催79日間	271,865	14,017,430,400	177,435,828	109.9%	116.8%	門別
2014	15開催80日間	280,187	15,706,698,980	196,333,738	112.0%	112.1%	門別
2015	15開催80日間	279,982	16,900,139,110	211,251,739	113.5%	107.6%	門別
2016	15開催80日間	267,539	20,355,012,180	254,437,652	117.6%	120.4%	門別
2017	15開催80日間	265,978	24,641,214,240	308,015,178	114.0%	121.1%	門別
2018	16開催76日間	271,337	25,143,427,050	330,834,566	99.3%	102.0%	門別
2019	15開催80日間	301,155	33,082,144,890	413,526,811	125.8%	131.6%	門別
2020	15開催82日間	185,271	52,044,806,060	634,692,757	155.6%	157.3%	門別
2021	15開催82日間	260,937	52,299,692,470	637,801,128	139.1%	100.5%	門別
2022	15開催85日間	304,031	52,778,575,710	620,924,420	120.2%	100.9%	門別

\*入場人員は門別競馬場及び場外発売所の合計

入会者

長谷川進一氏  
札幌市

田中裕之氏  
新ひだか町

松本智氏  
札幌市

山口正氏  
恵庭市

廣野敏樹氏  
札幌市

工藤圭介氏  
東京都

八木澤充貴氏  
新ひだか町

代表者変更



矢野亨憲氏  
(旧代表者 中村豊氏)

退会者

次の方々が退会されました。  
在籍中のご協力に感謝します。

(有)別牧場  
岡崎敏彦氏

佐藤陽一氏

おくやみ

次の方々が逝去されました。謹んで哀悼の意を表しますとともに心よりご冥福をお祈り申し上げます。



大浅 貢氏 (84)

昭和63年に入会された当協会相談役の大浅貢さんが令和4年10月2日、逝去されました。平成26年から相談役として当協会の運営にご尽力いただきました。

キヨシサービス(株)



高田喜嘉氏 (85)

当協会顧問の高田喜嘉さんが令和4年10月9日、逝去されました。

昭和55年に入会され、平成9年から理事として、また常務理事、副会長として当協会の運営に携わり、また平成22年からは顧問としてご尽力いただきました。また日本馬主協会連合会の委員も努められ、競馬界の発展に多大な貢献をされました。



(有)静内白井牧場  
白井康博氏 (68)  
(令和四年十二月七日逝去)

事務局から

●足掛け3年間続いた新型コロナウイルス感染対策は、3月13日をもってマスクの着用は個人の判断にゆだねられ、実質解除された状況となりました。この政府からのコロナ対策を受け、来場される馬主様や家族同伴者の来場・馬主エリアにおいてのマスク着用も個人の判断にゆだねる運用となりました。現在、各競馬場の馬主エリアへの入場につきましては、これまでを踏襲し引き続き運用されております。GⅠレース開催当日などは入場者数の制限が通常時と異なることがありますので、来場予定の会員様は、ご遠慮なく事務局までご連絡ください。  
なお、美浦・栗東両トレーニングセンターの入場は馬主様本人のみ可、競馬会館は部屋数を制限し開館中です。

●馬主・競馬会館等のご利用などについてのお問い合わせやご不明な点などございましたら、事務局までご連絡ください。また、札幌競馬場にお越しの際はお気軽に事務所にお立ち寄りくださいますようお願いいたします。  
(佐藤・嶋田・水上)

「北の蹄跡」(通巻第71号)

2023年4月30日発行  
発行:一般社団法人 札幌馬主協会  
編集発行人:岡田牧雄  
〒060-0016  
札幌市中央区北16条西16丁目1-1  
TEL 011(726)0461

企画・編集:(株)北海道新聞Hot Media  
馬事通信編集部  
表紙:札幌競馬場ゴール板風景  
写真提供:JRA、NAR  
本誌掲載の写真および記事等の無断転載を禁じます

◆編集後記

「北の蹄跡」第17号(通巻71号)をお届けいたします。

- 昨年の札幌競馬開催は札幌記念開催日のみ当日入場券はネット販売と制限がかかったものの、ほぼコロナ前の運用での開催となりました。馬主エリアにおいては3年ぶりに感染対策を講じビュッフェ形式での昼食を提供いたしました。競馬場は色とりどりの花で装飾。競馬ファンは拍手で盛り上げるなか、白熱したレースが繰り広げられました。
- 表紙は「札幌競馬場ゴール板」、裏表紙は「スタンド4階馬主席花装飾」の風景です。
- 今号の特集は4つ、1つは2022年札幌開催を振り返る「札幌開催回顧」、「全日本的なダート競走の体系整備」について。当協会要項事項の一つ「札幌記念GⅠ昇格への道」、最後に引退馬に関する「ひだか・ホース・フレンズ」の紹介をお送りいたします。
- 本編集にあたりJRAはじめご協力いただきました方々にこの場をお借りしましてお礼申し上げます。
- 本年より、ホームページのコンテンツを増やし、コラムなどは月1回程度で更新、会員ページを追加し会員勝ち馬などはこちらへ掲載する予定です。よって、会報の発行を年1回とし1年の振り返りのな記録誌として発刊する予定で進めてまいります。  
引き続き、当委員会では、会員の皆様に親しまれ、馬主活動に役立てられるような会報づくりに努めてまいりますので、ご要望やご意見をお寄せいただけますようよろしくお願いいたします。

総務・広報委員会	委員長 木村 貢
	副委員長 吉澤克己
	委員 藤原俊哉
	委員 下河辺隆行
	委員 岡田隆寛

◆札幌馬主協会ホームページについて

当協会のホームページを立ち上げて7年目を迎えます。会員の皆様にさまざまな情報提供ができるよう、少しずつ内容の充実にも努めますので、ご意見を事務局までお寄せください。

アドレス <http://sapporo-rho.jp>

(総務・広報委員会)

立ちほだかる壁が高いから、

それを越えるための知恵が生まれる。

目指す場所が遙か遠いから、

野望はゆっくりと大きく育つ。

夢を語りつづけるから、

気まぐれな風が幸運を連れてくる。

さあ、走り出そう。

前へ進む者だけがたどり着ける場所へ。

